

〈資料〉

幕末・明治・大正期  
イギリス日本人留学生資料(2)\*

List of Names of Japanese Students in  
England, 1862-1926(2)

井上 琢 智

Japanese students going overseas to study and the Yatoi (foreign employees) in the Meiji and Taisho Eras played an important role in the modernization of Japan.

This list of names includes Japanese students who studies in England between 1862 and 1926. To compile this list, we used original documents in English, such as *The Book of Matriculations and Degrees: a Catalogue of those who have Matriculated or admitted to any Degree in the Univerity of Cambridge from 1851-1900* and *University College's Calendar and its Fees Books*, in addition to as many of the Japanese students' biographies and diaries as we could obtain.

Takutoshi Inoue

JEL : A14, B31

キーワード : 日本人留学生、イギリス、日本、近代化、明治期、大正期

Key Words : Japanese students, England, Japan, modernization, Meiji and Taisho Eras

第9節 アバディーン・グラマー・スクール, アバディーン大学在籍者・卒業生

1. アバディーン・グラマー・スクール

---

\* 本資料は「幕末・明治・大正期イギリス日本人留学生資料(1)」『経済学論究』第56巻第4号(2002年3月発行、135-206頁)の続編である。

磯永彦輔（彦助、長沢鼎：1854-1934.3.1. 滞在：滞在：1865.5-永住〈アバディーン・グラマー・スクール→カルフォルニア〉）薩摩出身、公費留学、目的：工学系、出身校：薩摩開成所【資料】『太政類典』、『薩藩海軍史』、犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』、林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』（4）、『明治維新人名辞典』、『日本人名大事典』

長沢鼎→磯永彦輔

## 2. アバディーン大学

松村任三（1856.1.9-1928.5.4. 滞在：1886-88〈ハイデルベルグ大学→アバディーン大学〉）常陸国多賀郡下手網村出身、公費留学、目的：理学（植物学）系、初勤務先：東京植物園出仕、帰国後勤務先：帝国大学理科大学教授【著作】『本草字典』、『植物学語抄』【資料】「松村任三氏」『東洋学芸雑誌』51、中井猛之進「理学博士松村任三氏植物学上ノ事績ノ概略」『植物学雑誌』29-346、「理学博士松村任三氏追悼号」『東洋学芸雑誌』542、『公文録』、上野益三『年表日本博物学史』、渡辺実『近代日本海外留学生史』、『日本人名大事典』

## 第 10 節 リーズ大学在籍者・卒業生

大竹多気（1862-1918.7.19. 滞在：1885-89.12〈リーズ大学〉、1905.8-06）会津出身、公費留学、公費個人視察、目的：工学（製絨工業）系、出身学校：工部大学校機械科、初勤務先：千住製絨所、帰国後勤務先：千住製絨所【資料】「大竹多気氏の薨去」『会津史談会会報』13、『公文録』、『旧工部大学校史料』、『大日本博士録』、渡辺実『近代日本海外留学生史』、『大正過去帳』、『日本人名大事典』

吉武栄之進（1862.6.19-1927.1.3. 滞在：1899.5-1902.5〈リーズ大学〉）長野県松本出身、公費留学、目的：理学（毛染毛織物捺染法）系、出身学校：東京大学理学部化学科、初勤務先：東京府中学校教諭、帰国後勤務先：東京工業学校教授【著作】『化学工業全書』【資料】『大日本博士録』、『日本現今人名辞典』

### 第 11 節 ヴィクトリア大学在籍者・卒業生

浅川権八 (1877.4.6-1962.12.15. 滞在：1912.3-15.12 (ヴィクトリア大学)) 東京板橋出身, 公費留学, 目的：工学 (機械工学) 系, 出身校：東京高等工業学校, 初勤務先：芝浦製作所技師, 帰国後勤務先：東京高等工業学校教授【資料】浅川先生謝恩会『浅川先生のおもかげ』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

### 第 12 節 バーミンガム大学在籍者・卒業生

秋元春朝 (1881-1948. 滞在：1904.10-08 (バーミンガム大学), 1909) 群馬県出身, 私費留学, 公費団体視察, 目的：人文系, 経済, 出身校：学習院高等科【資料】『群馬県人名大事典』

沖巖 (1883.2.23-1963.9.11. 滞在：1909.3-11.8 (バーミンガム大学)) 兵庫県生野出身, 私費留学, 目的：工学 (機械工学) 系, 出身校：東京帝国大学工科大学機械工学科, 帰国後勤務先：明治専門学校【資料】『大日本博士録』, 日本学士院『学問の山なみ』, 『日本人名大事典』

三井弁蔵 (高友、宗知：1887.12.7-1941.5.21. 滞在：1908-? (リーズ・スクール [確認在籍：1908-09] →バーミンガム大学 [1910 入学])) 出身校：学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(MITSUI Bebso Takayomo：在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

渡辺英夫 (1894.10.28-1953.10.31. 滞在：1908-16 (リーズ・カレッジ [確認在籍：1908-13] →バーミンガム大学 [1913-16]))【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(WATANABE Hideo：在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

### 第 13 節 シェフィールド大学在籍者・卒業生

東馬三郎 (1883.3.21-?. 滞在：1911.12.22-15.8.12 (ヴィッカーズ社→シェフィールド大学)) 新潟県長岡出身, 私費留学, 目的：工学 (冶金学) 系, 出身校：京

都帝国大学工科大学機械工学科, 帰国後勤務先: 日本製鋼技師【資料】『日本製鋼社史資料』(上), 『昭和人名辞典』

## 第 14 節 法学院在籍者・卒業生

### 1. ミドル・テンプル<sup>20)</sup>

伊藤茂次 (?-?. 滞在: ?-? 〈入学: 1920.7.14 [31 歳] →資格取得 [1924.1.28]〉)

桑名出身【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

伊東裕直 (?-?. 滞在: ?-? 〈入学: 1892.11.22 [24 歳] -〉) 東京出身【資料】

島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

入江陳重→穂積陳重

植村俊平 (1863.10.19-1941.11.19. 滞在: 1888-91.11 〈入学: 1889.1.21 [25 歳] →資格取得 [1891.11.17]〉) 山口県〈東京〉出身, 私費留学, 目的: 法律, 出身学校: 帝国大学法科大学, 初勤務先: 帝国大学法科大学助教授, 帰国後勤務先: 日本銀行副支配人【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5, 山路愛山『現代富豪論』, 『近世防長人名辞典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』

岡村輝彦 (1855.12-1916.2.1. 滞在: 1876.6.25-81 〈キングス・カレッジ入学 [1876.11.7]・ミドル・テンプル入学 [1876.11.7 〈20 歳〉] →資格取得 [1880.1.26]〉) 京都〈東京〉出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身学校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 司法省民事局出仕→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンプルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3, 島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),

20) ミドル・テンプルの在籍確認のために利用したのは主として以下の資料である。

島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中大百年史編纂ニュース』No.5、1985。

『日本人名大事典』

岡本乙一 (?-?. 滞在:?? <入学:1917.10.11 [26歳] →資格取得 [1920.1.26]>)

【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

河原政勝 (?-?. 滞在:?? <入学:1920.6.14 [25歳] ->) 神戸出身【資料】

島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

小林市太郎 (?-?. 滞在:??:ミドル・テンプル入学 <1920.7.26 [30歳] →資格取得 [1923.1.26]>)

東京出身【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

向坂兌 (?-?. 滞在:1876.6.25-81.7 <ミドル・テンプル入学 [1876.11.7 <21歳]> →資格取得 [1879.6.25]・キングス・カレッジ入学 [1876.11.7, Sagisaka Nanshi]>)

栃木県館林出身, 公費留学, 目的:法律, 出身学校:東京開成学校, 帰国後勤務先:直後死亡【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンプルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3, 島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4)

佐々木四郎 (?-?. 滞在:?? <入学:1924.5.12 [32歳] →資格取得 [1929.11.18]>)

群馬出身【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5

清水市太郎 (1865.9-1934.12.19. 滞在:1890-93 <入学:1890.11.15 [22歳] →資格取得 [1893.6.14]>)

愛知県半田出身, 私費留学, 目的:法律, 出身学校:帝国大学法科大学, 初勤務先:司法省判事, 帰国後勤務先:海軍大学校教授【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中大百年史編纂ニュース』5, 日本力行会『現今日本名家列伝』, 『日本人名大事典』

高柳賢三 (1887.5.11-1967.6.11. 滞在:?? <入学:1919.1.16 [32歳] ->)

熊谷市出身, 出身校:東京帝国大学法科大学, 帰国後勤務先:東京帝国大学法学部教授(英米法)【資料】内田力蔵「高柳賢三」『朝日ジャーナル』1961.10.8,

島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 『日本人名大事典』

武谷福三 (?-?. 滞在: 1870-? 〈入学: 1872.11.18 [20 歳] -〉) 徳島県出身, 公費留学, 目的: 軍事 (航海術), 出身学校: 大学南校【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 『太政類典』

戸水寛人 (1861.6-1935.1.20. 滞在: 1889.11-94.8 〈入学: 1890.5.3 [27 歳] → 資格取得 [1893.1.16]〉) 金沢 (東京) 出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身学校: 帝国大学法科大学, 先勤務先: 東京始藩裁判所判事帰国後勤務先: 東京大学法科大学教授【著作】『シジウィク哲学と羅馬法』, 『春秋時代楚国相続法』【資料】戸水寛人『回想録』, 島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 告天子「戸水博士談片」『中央公論』22-3, 「慢録戸水博士談片」『法政新誌』39, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

長岡護美 (1843-1906.4. 滞在: 1872.1.20-79.1 〈アメリカ [1872-76] → ミドル・テンプル入学 [1876.1.22 〈30 歳〉] → 資格取得 [1878.7.3]〉) 熊本出身, 私費留学, 目的: 法律【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 鳥谷部春汀「長岡雲海先生」『春汀全集』3, 池辺義象『長岡雲海公伝』, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

浜口六之助 (?-?. 滞在: ?-? 〈入学: 1905.1.25 [26 歳] -〉) 東京出身【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, cf. 「浜口録之助」の項参照 (五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『大衆人事録』昭和 10 版)

土方寧 (1859.2.12-1939.5.18. 滞在: 1887.6-91.5 〈入学: 1887.11.8 [27 歳] → 資格取得 [1890.11.17]〉) 土佐 (東京) 出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身校: 東京大学法学部, 初勤務先: 帝国大学法科大学助教授, 帰国後勤務先: 帝国大学法科大学教授→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5,

高柳賢二「土方寧」『法学協会雑誌』57-8, 渡辺実『近代日本海外留学生史』,  
『日本人名大事典』

藤村徳治 (?-?. 滞在 : ?-? 〈入学 : 1892.1.15 [25 歳]〉-) 【資料】島田次郎「ミ  
ドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5

星亨 (1850.4-1901.6.21. 滞在 : 1874.10.13-77 〈入学 : 1875.1.25 [24 歳]〉 →  
資格取得 [1877.6.13] ) 江戸出身, 公費留学, 目的 : 法律 (日本人最初の  
barrister at law), 出身校 : 何礼之に師事, 初勤務先 : 神奈川県二等訳官, 帰  
国後勤務先 : 代言人 【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚  
書」『中大百年史編纂ニュース』5, 伊藤痴遊『巨人星亨』, 伊藤痴遊『星亨』,  
中村菊男『星亨』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本  
人名大事典』

穂積重威 (1893.9-?. 滞在 : 1919-23 〈入学 : 1920.5.6 [27 歳] / 1922.1.18 [28  
歳] -) 東京出身, 帰国後勤務先 : 東京帝国大学法学部教授 → 貴族院議員 → 枢密  
院顧問, 国際軍事裁判所主任弁護士 【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと  
日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 『大正人名辞典 III』(下  
), 『大人名辞典』

穂積陳重 (入江 : 1856.7.11-1926.4.7. 滞在 : 1876.6.25-81 〈ミドル・テンプル  
入学 [1876.11.7 〈20 歳]〉 → 資格取得 [1879.6.25]・キングス・カレッジ入学  
[1876.11.7, Iriye Nobushige] → ユニバーシティ・カレッジ [Iriye, N., 確  
認在籍 : 1878-79] → ベルリン大学) 愛媛県宇和島 (館林) 出身, 公費留学,  
目的 : 法律, 出身学校 : 東京開成学校, 帰国後勤務先 : 東京大学法学部講師 →  
東京大学教授 【著作】『法律進化論』 【資料】島田次郎「ロンドン大学キング  
スカレッジとミドル・テンプルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3, 島  
田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』  
5, 穂積陳重『法窓夜話』, 「穂積陳重の渡英日記」『書斎の窓』31-32, 穂積重  
遠編『穂積陳重遺文集』, 『穂積歌子日記— 1890-1906 —』, 穂積重遠『父を  
語る』, 南条文雄『懐旧録』, 九和会『男爵桜井錠二遺稿— 思出の数々—』『太  
政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬

場辰猪全集』(4), 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』

増島六一郎 (1857.6-1948.11.13. 滞在: 1879-84 〈入学: 1881.1.29 [23 歳] - 資格取得 [1883.6.6]〉) 彦根出身, 私費留学, 目的: 法律, 出身学校: 東京大学法学部, 帰国後勤務先: 東京大学講師, 代言人→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 「雑報増島六一郎氏」『法政新誌』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

三好退蔵 (1845.5.7-1908.8.18. 滞在: 1872.1.27-73.3.12 〈ミドル・テンプル〉, 1882.3.14-85.4.23, 1888) 宮崎県出身, 私費留学, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的: 全般・外交交渉, 法律【資料】花井卓蔵『訟庭論草刺客を論ず』, 『公文録』, 『太政類典』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

松本忠重 (?-?. 滞在: ?-? 〈入学: 1898.6.20 [28 歳] - 資格取得 [1902.11.17]〉) 鳥取出身【資料】島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5

## 2. インナー・テンプル

陸奥広吉 (1869.3-1942.11.19. 滞在: 1887-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Mutsu, H., 確認在籍: 1887-88] →ケンブリッジ大学 [Trinity Hall, 1888.10-12 →所属無, 1890] →インナー・テンプル) 彦根出身, 私費留学, 目的: 法律 (barrister at law 〈1893.11.17〉), 出身学校: 東京大学法学部, 帰国後勤務先: 東京大学講師, 代言人→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加, 臨時駐英大使 (1907)【資料】都市問題研究会鎌倉班「陸奥広吉と同人会」『思想の科学』1926.1, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 下重暁子『純愛—エセルと陸奥家の人々—』, 『日本人名大事典』

## 第 15 節 ベッドフォード女子大学在籍者・卒業生

大江スミ (宮川スミ: 1875.9.7-1948.1.6. 滞在: 1902.10-06.8.3 〈バケーシーポリテクニーク [ロンドン] →ベッドフォード女子大学衛生科→ロンドン・



スクール・オブ・ポリティカル・エコノミー)) 長崎出身, 公費留学, 目的: 人文(家政学)系, 初勤務先: 東洋英和女学校教員, 帰国後勤務先: 女子高等師範学校教員兼女子高等師範学校教授【著作】『三ぼう主義』, 『応用家事精義』, 『家事实習案内』【資料】神崎清『現代婦人伝』, 東京家政学院光塩会『大江スミ先生』, 「大江スミ先生二十周年」『光塩』18, 志垣寛「女流教育家評伝大江スミ」『家庭科教育』29-6, 『東京家政学院五十年史』, 『日本キリスト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

宮川スミ→大江スミ

## 第16節 ニュー・カレッジ在籍者・卒業生

植村環(1890.8.24-1982.5.26. 滞在:1911-15, 1925-29〈ウェルズレー大学〔アメリカ〕→ニュー・カレッジ) 東京麹町出身, 私費留学, 私費留学, 目的: 人文系, 宗教系, 出身校: 女子学院, 帰国後勤務先: 女子英学塾教師【著作】『父母とわれら』, 『日本YMCA 五十年の歩み』【資料】森幹郎「植村環」『伝記』4-2, 『日本キリスト教歴史大事典』, 『国史大辞典』

露無文治(1866.2.18-1941.2.22. 滞在:1901-03, 1911-12〈ユニオン・カレッジ〔アメリカ〕→ニュー・カレッジ) 倉敷出身, 私費留学, 私費留学, 目的: 宗教(神学)系, 出身校: 同志社, 初勤務先: 姫路教会主任伝道師, 帰国後勤務先: 今治教会牧師【著作】『基督教之本原真理』, 『基督教修養一班』【資料】『日本キリスト教歴史大事典』

## 第17節 バケーシー・ポリテクニク(ロンドン)在籍者・卒業生

大江スミ(宮川スミ:1875.9.7-1948.1.6. 滞在:1902.10-06.8.3〈バケーシー・ポリテクニク〔ロンドン〕→ベッドフォード女子大学衛生科→ロンドン・スクール・オブ・ポリティカル・エコノミー) 長崎出身, 公費留学, 目的: 人文(家政学)系, 初勤務先: 東洋英和女学校教員, 帰国後勤務先: 女子高等師範学校教員兼女子高等師範学校教授【著作】『三ぼう主義』, 『応用家事精義』, 『家事实習案内』【資料】神崎清『現代婦人伝』, 東京家政学院光塩会

『大江スミ先生』, 「大江スミ先生二十周年」『光塩』18, 志垣寛「女流教育家  
評伝大江スミ」『家庭科教育』29-6, 『東京家政学院五十年史』, 『日本キリ  
スト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

宮川スミ→大江スミ

## 第 18 節 ロンドン・スクール・オブ・ポリティカル・エコノミー<sup>21)</sup> 在籍者・卒業生

井上勝之助 (1861.7.11-1929.11.3. 滞在: 1871.3-79.3 〈ロンドン・スクール・  
オブ・ポリティカル・エコノミー〉) 山口出身, 公費留学 (岡林篤馬・木戸正之  
助・豊原百太郎・長松修蔵・正木退蔵・山口武らと同行), 目的: 法律, 財政・  
金融 (実務), 帰国後勤務先: 大蔵省雇→イギリス特命全権大使 (1913.6.18)  
→ジャパン・ソサエティ会長【資料】『世外井上公伝』(5), 『戦前期日本官  
僚制の制度・組織・人事』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

大江スミ (宮川スミ: 1875.9.7-1948.1.6. 滞在: 1902.10-06.8.3 〈バケーシー  
ポリテクニク [ロンドン] →ベッドフォード女子大学衛生科→ロンドン・  
スクール・オブ・ポリティカル・エコノミー〉) 長崎出身, 公費留学, 目的:  
人文 (家政学) 系, 初勤務先: 東洋英和女学校教員, 帰国後勤務先: 女子高  
等師範学校教員兼女子高等師範学校教授【著作】『三ぼう主義』, 『応用家事  
精義』, 『家事实習案内』【資料】神崎清『現代婦人伝』, 東京家政学院光塩会  
『大江スミ先生』, 「大江スミ先生二十周年」『光塩』18, 志垣寛「女流教育家  
評伝大江スミ」『家庭科教育』29-6, 『東京家政学院五十年史』, 『日本キリ  
スト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

宮川スミ→大江スミ

---

21) London School of Economics and Political Science (LSE) は、ウエップ夫妻たちの努力  
で 1895 年に創立されたことから考えれば、この学校は LSE ではないと思われる。この学校を現  
時点では具体的には確定できていない (R. Dahrendorf, *LSE: A History of the London  
School of Economics and Political Science, 1895-1995*, 1995)。

## 第19節 マンチェスター高等工芸学校在籍者・卒業生

内ヶ崎作三郎(1877.4.8-1947.2.4. 滞在：1908.6-11.8〈オックスフォード大学→マンチェスター高等工芸学校〉)宮城県出身、私費留学、目的：宗教学、出身学校：東京帝国大学文科大学英文科、帰国後勤務先：早稲田大学教授【著作】『リンカーン伝』【資料】山浦貫一「教育家」『政局を繞る人々』、『早稲田大学百年史』(2)、『キリスト教人名辞典』、『日本人名大事典』

西田博太郎(1877.8.1-1953.1.26. 滞在：1903-05.8〈マンチェスター高等工芸学校→ミュンヘン・ハウゼン化学学校〉)東京下谷出身、公費留学、目的：理学(化学)系、出身学校：東京帝国大学工科大学応用化学科、先勤務先：印刷局雇、帰国後勤務先：名古屋高等工業学校教授【著作】『近世染色法』、『工業概論』、『工場管理』【資料】『群馬県人名大事典』、『近代防長人物誌』(天)、『大日本博士録』、『日本人名大事典』

## 第20節 テクニカル・スクール・マンチェスター在籍者・卒業生

菊池恭三(1859.10.15-1942.12.28：滞在：1887-89.1〈テクニカル・スクール・マンチェスター〉)愛媛県八幡浜出身、私費留学、目的：工学(機械工学・紡績機械)系、出身校：工部大学校機械科、初勤務先：海軍横須賀造船所、帰国後勤務先：大阪平野紡績支配人兼工務長【資料】新田直蔵『菊地恭三翁伝』、『日本財界人物伝二』、原吉平「菊地恭三翁を偲ぶ」『経済人』5-6、『大日本博士録』、渡辺実『近代日本海外留学生史』、『国史大辞典』

佐野善作(1873.8.29-1952.5.1. 滞在：1897-1900.10〈コロンビア大学、ロンドン大学、テクニカル・スクール・マンチェスター〉)静岡出身、公費留学、目的：財政・金融(財政・経済学)、出身校：高等商業学校、初勤務先：高等商業学校助教授、帰国後勤務先：高等商業学校教授→東京商科大学初代校長【著作】『取引所投機論』、『銀行論』、『商学通論』【資料】『一橋大学と佐野善作先生』、『佐野善作博士記念論文集』、渡辺実『近代日本留学生史』、日本力行会『現今日本名家列伝』、『日本人名大事典』

## 第 21 節 サウス・ケンジントン化学学校在籍者・卒業生

杉浦重剛 (1855-1924.2.13. 滞在：1876.6.25-80.5.18 〈サイレンセスター農学校 [1876.8.18-76.9] →オウエンス・カレッジ [1876.12-] →サウス・ケンジントン化学学校 [78.10] →ユニバーシティ・カレッジ [Sugiura, S., 確認在籍：1879-80]〉) 滋賀県膳所出身, 公費留学, 目的：理学 (化学) 系、出身校：東京開成学校, 帰国後勤務先：東京大学理科博物場掛取締【著作】『日本教育原論』, 『日本通鑑』【資料】大町桂月『杉浦重剛先生』, 回想杉浦重剛編集委員会『回想杉浦重剛—その生涯と業績—』, 明治教育史研究会『杉浦重剛全集』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 唐沢富太郎編著『教育人物辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

## 第 22 節 ロイヤル・アカデミー (ポーツマス) 在籍者・卒業生

石橋和訓 (1876.6.6-1928.5.3. 滞在：1903-18.1 〈ロイヤル・アカデミー〉) 北海道出身, 目的：宗教 (宗教学) 系, 出身校：東京帝国大学文科大学哲学科【資料】『近代日本美術全集三』, 藤島武二「石橋君を憶ふ」『中央美術』14-6, 武内鶴之助「文展推薦に七作家—石橋和訓氏—」『中央美術』4-11, 『日本キリスト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

黒岡帯刀 (1851.8.2-1927.12.19. 滞在：1870.12.3-73.7.23 〈ロイヤル・アカデミー〉, 1880.12-83.2) 薩摩出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：軍事, 出身校：造士館, 帰国後勤務先：海軍少尉補【資料】海軍教育本部『帝国海軍教育史』, 梅溪昇「黒岡帯刀の英国留学について」『日本近代化の諸相』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

## 第 23 節 ロイヤル・カレッジ在籍者・卒業生

藤田平太郎 (1869.10.7-1940.2.23. 滞在：1888-97 〈ロイヤル・カレッジ〉) 東京出身, 目的：工学 (鉱山学) 系, 出身校：慶應義塾普通部【資料】『同和鉱

業株式会社創業百年史』、『大衆人事録』(昭和14年),『昭和物故人名録』

## 第24節 ダレッチ・カレッジ在籍者・卒業生

原亮一郎(1869.2-1935.10.9. 滞在:1886-92〈ダレッチ・カレッジ〉)岐阜県羽島出身,私費留学,目的:財政・金融,出身校:同人社,東京高等商業学校,初勤務先:外務省(翻訳局・通商局),帰国後勤務先:金港堂(出版社)【資料】岡野他家夫「明治大正の出版屋」『読書と文献』4-4,『日本現今人名辞典』,『日本人名大事典』

## 第25節 王立鉱山学校・王立科学短大・王立化学短大在籍者・卒業生

浅野長之(1864.5-1947.4. 滞在:1876-81,1884.3.12-90〈王立理学校[1884-89卒業]〉)広島出身,私費留学,目的:人文系,理工系【資料】『海外における公家』,『昭和新修華族家系大成』(上),『明治過去帳』

井上十吉(1862-1929.4.7. 滞在:1873-82〈ラグビー校→キングス・カレッジ[確認在籍:1879-80]→王立鉱山学校[1882-?]〉)徳島出身,私費留学(桜井錠二と親交),目的:工学(採鉱学)系,英語辞書【資料】“A Few Pages of My Diary”『英語の日本』9-1,木村喜吉『和魂洋才の若ものたち—日本の留学生—』,石附実『近代日本の海外留学史』,井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),『日本人名大事典』

小花冬吉(1856-1934. 滞在:1880.2.8-83.5〈王立鉱山学校〉)江戸出身,公費留学,目的:工学(冶金)系,出身校:工部大学校冶金科(近藤貴蔵・小花・栗木廉は同級生),帰国後勤務先:工部省御用掛(鉱山課出勤)→秋田鉱山専門学校初代校長【資料】岩谷東七郎編『小花冬吉先生』,柏木巳間之助「故工学博士小花冬吉先生を弔ふ」『日本鉱業会誌』590,『旧工部大学校史料』,唐沢富太郎『教育人物史』,北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』,渡辺実『近代日本海外留学生史』

栗木廉(?-1891.4.8. 滞在:1880.2.8-83.10.5〈王立鉱山学校〉)東京出身,公費留学,目的:工学(地質学)系,出身校:工部大学校冶金科(近藤貴蔵・小

花冬吉・栗木は同級生), 帰国後勤務先: 工部省御用掛 (鉦山課出勤) 【資料】『旧工部大学校史料』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『改正官員録』(明治 19 年版), 『明治過去帳』

近藤貴蔵 (喜蔵: ?-1881.12.27. 滞在: 1880.2.8-81 (王立鉦山学校)) 熊本出身, 公費留学, 目的: 工学 (鉦山学) 系, 出身校: 工部大学校鉦山科 (近藤・小花冬吉・栗木廉は同級生) 【資料】『旧工部大学校史料』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

## 第 26 節 王立技術学校在籍者・卒業生

大久保立 (1871.4.23-1941.2.4. 滞在: 1895-99.7 (王立技術学校→アームストロング社エルジツク造船所→グラスゴウ大学→ロブニツ造船所)) 東京出身, 私費留学, 目的: 工学 (造船学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 海軍呉造船廠少技師 【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『日本現今人名辞典』, cf. 田口卯吉「大久保一翁逝けり」『田口卯吉全集』, 「大久保一翁伝」『旧幕臣』3

## 第 27 節 サイレンスター農学校在籍者・卒業生

杉浦重剛 (1855-1924.2.13. 滞在: 1876.6.25-80.5.18 (サイレンセスター農学校 [1876.8.18-76.9] →オウエンス・カレッジ [1876.12-] →サウス・ケンジントン化学学校 [78.10] →ユニバーシティ・カレッジ [Sugiura, S., 確認在籍: 1879-80])) 滋賀県膳所出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 東京大学理科博物場掛取締 【著作】『日本教育原論』, 『日本通鑑』 【資料】大町桂月『杉浦重剛先生』, 回想杉浦重剛編集委員会『回想杉浦重剛—その生涯と業績—』, 明治教育史研究会『杉浦重剛全集』, 小山騰『破天荒 (明治留学生) 列伝』, 唐沢富太郎編著『教育人物辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

松平康莊 (1867.2-1930.11.17. 滞在：1884-92.10 〈サイレンセスター農学校〉)  
福井出身, 私費留学, 目的：人文系【資料】加藤亮一編刊『侯爵松平康莊公  
爵夫人節子御略歴』, 森恒救「故松平康莊侯爵の逸話」『福井県』4-2, 『大日  
本農会百年史』, 『日本現今人名辞典』, 『昭和物故人名録』

## 第28節 グリニッジ海軍大学校在籍者・卒業生

有栖川威仁 (1862.1.13-1913.7.10. 滞在：1880.12-83.6, 1889.2-90.4 〈グリニッ  
ジ海軍大学校〉) 京都出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：軍事, 出身学校：  
海軍兵学校, 先勤務先：海軍少尉, 帰国後勤務先：海軍大尉【資料】帝国軍  
人教育会編刊『有栖川宮』, 「故有栖川威仁親王殿下御閲歴」『大日本水産会  
報』371, 武田勝蔵「威仁親王と大津事件」『中央史壇』12-4, 武田勝蔵「大  
行天皇と威仁親王」『中央史壇』13-2, 『太政類典』, 『谷干城遺稿』, 『日本  
人名大事典』

安保清種 (1870.10.15-1948.6.8. 滞在：1900.4-00.12, 1905.12-08.4 〈グリニッ  
ジ海軍大学校〉, 1913.3-15.7) 佐賀県出身, 公費団体視察, 公費留学, 公費個  
人視察, 目的：軍事, 出身学校：海軍兵学校, 先勤務先：海軍少尉, 帰国後勤  
務先：海軍軍司令部副官【資料】日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・  
組織・人事』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『日本人名大事典』

伊集院五郎 (1852.9.28-1921.1.13. 滞在：1877.11-86.6 〈グリニッジ海軍大学  
校〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的：軍事(運用術, 航海術・砲術), 出身学校：  
海軍兵学校, 帰国後勤務先：海軍大尉【資料】『類聚伝記大日本史』(13), 鮫  
島素直「伊集院五郎」『文芸春秋』42-8, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』,  
『公文録』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

磯崎清吉 (1877.10-?. 滞在：1908 〈グリニッジ海軍大学校〉) 徳島出身, 公費  
留学, 目的：工学系, 出身学校：東京帝国大学工科造船学科【資料】『阿波人  
物誌』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『大衆人事録』(昭和14年)

小野寺恕 (1883.4-?. 滞在：1908) 岩手県出身, 公費留学, 目的：工学(海軍軍  
事研究)系, 出身学校：海軍機関学校, 先勤務先：海軍少機関士, 帰国後勤務

先：海軍機関中尉【資料】編海軍教育本部『帝国海軍教育史』(7), 外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『人事興信録』

河合定二 (1871.11.4-?. 滞在：1911.1-14.10〈グリニッジ海軍大学校〉) 福井市出身, 公費留学, 目的：工学(造船学)系, 出身学校：東京帝国大学工科大学造船科, 先勤務先：海軍造船中技士, 帰国後勤務先：海軍造船少監鑑政本部出仕【資料】『大日本博士録』

近藤基樹 (1864.3.11-1930.3.8. 滞在：1884.11-86 ; 1886.9-90〈グリニッジ海軍大学校〉) 三重県鳥羽出身, 私費留学, 公費留学, 目的：軍事, 工学(造船, 機械学)系, 出身学校：工部大学校機械科, 先勤務先：海軍省御用掛, 帰国後勤務先：海軍大技士→戦艦の設計で第3回学士院賞, 父の創設した攻玉中学校・同工学校・同高等工学校経営【資料】『旧工部大学校史料』, 『公文録』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

武村耕太郎 (1879.4-?. 滞在：1905.1-08〈グリニッジ海軍大学校〉) 大阪府出身, 公費留学, 目的：工学(機関学)系, 出身学校：海軍機関学校, 先勤務先：海軍少機関士, 帰国後勤務先：海軍艦政本部員【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『人事興信録』(第7版)

東郷平八郎 (1847.12.22-1934.5.30. 滞在：1871.2-78.5〈ウースター商船学校・グリニッジ海軍大学校・海軍短大〉) 鹿児島県出身, 公費留学〈リード [E.J.Read] の世話〉, 目的：軍事, 初勤務先：海軍中尉【資料】『東郷大将詳伝』, 小笠原長生編『東郷平八郎詳伝』, 蔦酒屋主人『東郷大将青年時代の境遇』, 『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

原田宗助 (1848.9-1909.9.25. 滞在：1871-77〈ユニバーシティ・カレッジ [Harada, S. 確認在籍：1872-73]〉, 1886.7.13-87.6.30〈グリニッジ海軍大学校、アームストロング会社製鉄工場〉) 鹿児島出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：軍事, 工学(造兵製鉄技術)系, 出身校：海軍兵学寮, 初勤務先：鉄道技手, 帰国後勤務先：海軍省出仕【資料】『太政類典』, 『官吏進退索引』, 下村富士男



『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

平賀讓 (1878.3.8-1943.2.17. 滞在:1905.1-09.1〈グリニッジ海軍大学校〉) 東京出身, 公費留学, 目的:工学(造船学)系, 出身学校:東京帝国大学工科大学造船科, 先勤務先:海軍造船中技士, 帰国後勤務先:海軍造船少艦→高速艦艇の研究で第3回学士院賞【資料】谷村豊太郎「平賀前帝大総長の追憶」『科学』13-5, 日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

舟木練太郎 (?-1923.10, 滞在:1875.6-81.7.11〈グリニッジ海軍大学校〉, 1886.7.13-87.6.30) 金沢出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的:軍事(運用術砲術)系, 出身校:海軍兵学寮, 帰国後勤務先:海軍中尉【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』, 『公文録』, 『太政類典』, 外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 石附実『近代日本の海外留学史』

堀内三郎 (1869.12.6-1933.12.20. 滞在:1903.2-04.2〈グリニッジ海軍大学校〉) 兵庫県篠山出身, 公費留学, 目的:軍事(砲術の改良進歩), 出身学校:海軍兵学校, 先勤務先:海軍少尉, 帰国後勤務先:海軍少佐【資料】日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『日本人名大事典』

水谷叔彦 (1866.12.28-?. 滞在:1893-87.10〈グリニッジ海軍大学校〉, 1907-08) 愛知県出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的:工学(機関学)系, 出身学校:海軍機関学校, 帰国後勤務先:海軍大機関士【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

宮原二郎 (1858.7-1918.1.15. 滞在:1875.6-83.1〈グリニッジ海軍大学校〉, 1883.7-86) 東京出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的:軍事, 工学(機関学)系, 出身学校:海軍兵学寮, 帰国後勤務先:海軍中機関士【資料】『海軍兵学校沿革』, 三枝博音『続技術家評伝』, 『公文録』, 『太政類典』, 『大日本博士録』, 『世外井上公伝』(5), 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』

吉井幸蔵（1855.10.4-1927.10.7. 滞在：1869.11-77.2.8〈グリニッジ海軍大学校〉, 1886.7.13-87.6.30）薩摩出身, 私費留学, 公費留学, 公費団体視察、目的：軍事, 出身学校：海軍兵学校, 帰国後勤務先：海軍兵学校入学（1回目）【資料】『公文録』, 『太政類典』, 『世外井上公伝』(5), 石附実『近代日本の海外留学史』, 『日本人名大事典』

## 第 29 節 ウースター商船学校在籍者・卒業生

東郷平八郎（1847.12.22-1934.5.30. 滞在：1871.2-78.5〈ウースター商船学校・グリニッジ海軍大学校・海軍短大〉）鹿児島県出身, 公費留学（リード [E.J.Read] の世話）, 目的：軍事, 初勤務先：海軍中尉【資料】『東郷大将詳伝』, 小笠原長生編『東郷平八郎詳伝』、蔦酒屋主人『東郷大将青年時代の境遇』, 『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

## 第 30 節 セント・トーマス病院学校（ロンドン大学）, セント・トーマス病院看護学校在籍者・卒業生

### 1. セント・トーマス病院学校

石黒宇宙治（1852.2.7-1923.9.30. 滞在：1890〈セント・トーマス病院学校〉）新潟県三条町出身, 私費留学, 目的：医学（内科学）系, 出身校：東京大学医学部, 初勤務先：栃木県宇都宮病院長【著作】『烈氏皮膚病学』, 『朱氏産科学』【資料】『新潟県百科事典』, 外山操『陸海軍将官人事総覧』（海軍編）

瀬脇寿雄（?-1919. 滞在：1886-88〈セント・トーマス病院学校〉）山口県出身, 私費留学, 目的：医学系, 帰国後勤務先：東京慈恵会医学専門学校教授【資料】東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会『高木兼寛伝』

高木兼寛（1849.9.15-1920.4.13. 滞在：1875.6.13-80.11.15〈セント・トーマス病院学校〉, 1904.12.26-05.1.14）宮崎出身, 公費留学, 公費団体視察, 私費個人視察, 目的：医学（外科学, 内科学）系, 出身校：鹿児島開成所, 初勤務先：海軍省九等出仕, 帰国後勤務先：海軍中医官→東京海軍病院院長【資料】佐

藤孝卿編『高木兼寛伝』, 東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会『高木兼寛伝』, 『太政類典』, 『東京慈恵会医科大学創立八十五年史』, 『日本人人名大事典』

高木兼二 (1881.9.9-1919.5.3. 滞在：1898-08.2 (セント・トーマス病院学校)) 東京出身, 私費留学, 目的：医学 (内科学) 系, 出身校：東京師範学校附属中学校【資料】東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会『高木兼寛伝』, 『東京慈恵会医科大学創立八十五年史』, 『大日本博士録』

高木喜寛 (1874.10.11-1953.1.22. 滞在：1890-02.7 (セント・トーマス病院学校)) 東京出身, 私費留学, 目的：医学 (外科学) 系, 出身校：学習院中学部【資料】永山武美「高木喜寛先生」『日本医事新報』1317, 永山武美「高木先生の思い出」『日本医事新報』1502, 東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会『高木兼寛伝』, 『東京慈恵会医科大学創立八十五年史』, 『大日本博士録』, 『日本人人名大事典』

高安道成 (1872.7.6-?. 滞在：1891-97 (セント・トーマス病院→プレスラウ大学 [ドイツ])) 大阪市東区道修町出身, 私費留学, 目的：医学 (外科学) 系, 出身校：成医学校, 帰国後勤務先：高安病院 (大阪)【資料】『大日本博士録』

戸塚環海 (1854.9.15-1932.1.31. 滞在：1881-88 (セント・トーマス病院学校)) 愛知県名古屋出身, 私費留学, 公費留学, 目的：医学系, 出身校：海軍軍医寮学舎, 初勤務先：海軍軍医副, 帰国後勤務先：海軍軍医少監【資料】『公文録』, 『太政類典』, 中野操『増補日本医事大年表』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』

山本景行 (?-1914.8.27. 滞在：1887-91 (セント・トーマス病院学校)) 和歌山県出身, 公費留学, 目的：医学系, 出身校：海軍医学寮学舎, 帰国後勤務先：海軍軍医学校教官【資料】東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会『高木兼寛伝』, 『官吏進退索引』

## 2. セント・トーマス病院看護婦学校

曾我鏗爾 (1869 (9.26) -?. 滞在：1894 (アメリカ) → 1896 (セント・トーマス病院看護学校) -) 茨城出身, 私費留学, 目的：看護学, 出身校：日本赤十字社病院第1回看護生徒, 初勤務先：日本赤十字病院【資料】「看護婦洋行」

『女学雑誌』430, 「赤心の花」『日本赤十字』94

那須セイ (?-?. 滞在: 1887.7.24-89.11.22 (セント・トーマス病院看護学校))  
大分出身, 私費留学, 目的: 医学 (看護学) 系, 出身校: 東京慈恵会医院看護  
婦教育所, 帰国後勤務先: 東京慈恵会医院女室看護長兼外来診察場掛【資料】  
亀岡美知子『近代日本看護史』(4)

拝志よしね (林徽音: 1866-1892.2.28. 滞在: 1887.7.24-89.11.22 (セント・ト  
ーマス病院看護学校)) 愛媛出身, 私費留学, 目的: 医学 (看護学) 系, 出身校:  
東京慈恵会医院看護婦教育所, 女子高等師範学校, 初勤務先: 帰国後勤務先:  
東京慈恵会医院看護婦【資料】亀岡美知子『近代日本看護史』(4), 『中外医  
事新報』187

林徽音→拝志よしね

### 第 31 節 ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ在籍者・卒業生

石橋和訓 (1876.6.6-1928.5.3. 滞在: 1903-18.1 (ロイヤル・アカデミー・オブ・  
アーツ)) 島根県出身, 私費留学, 目的: 芸術, 留学後勤務先: 洋画家【資料】  
東都文化交流『近代日本美術全集三』, 藤島武二「石橋君を憶ふ」『中央美術』  
14-6, 武内鶴之助「文展推薦の七作家—石橋和訓—」『中央美術』4-11, 『明  
治大正文学美術人名辞典』, 『島根県大百科事典』, 『日本人名大事典』

辰野金吾 (1853.8.22.-1919.3.25, 滞在: 1880.2.8-83.5 (キュービット建築会社、  
ロンドン大学→ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ [1886.7.-89.10])) 佐  
賀県唐津出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的: 工学系 (建築学) 系, 出身校:  
工部大学校造家科 (第 1 回卒業生として荒川新一郎・石橋絢彦・高峰讓吉ら  
と留学), 初勤務先: 工部省御用掛 (営繕課出勤)【資料】白鳥省吾『工学博  
士辰野金吾伝』, 岸田日出刀『辰野金吾』, 辰野隆「父の思い出」『建築雑誌』  
72-844, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

### 第 32 節 英国盲人高等師範学校在籍者・卒業生

中村京太郎 (1880.3.25-1964.12.24. 滞在：1912-14 〈英国盲人高等師範学校〉)  
静岡県浜松出身, 私費留学, 目的：人文 (視覚障害者教育, 視覚障害者福祉,  
視覚障害者留学第一号) 系, 出身学校：東京盲啞学校, 先勤務先：東京盲啞  
学校普通科教師, 帰国後勤務先：同愛訓盲院教師【資料】鈴木力二編『図説  
盲教育史事典』, 『日本キリスト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

### 第 33 節 ラグビー校在籍者・卒業生

井上十吉 (1862-1929.4.7. 滞在：1873-82 〈ラグビー校→キングス・カレッジ  
〔確認在籍：1879-80〕→王立鉱山学校 [1882-?]〉) 徳島出身, 私費留学 (桜  
井錠二と親交), 目的：工学 (採鉱学) 系, 英語辞書【資料】“A Few Pages  
of My Diary”『英語の日本』9-1, 木村喜吉『和魂洋才の若ものたち—日本の  
留学生—』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 井上琢智「日本学生会名簿」  
『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

### 第 34 節 各種研修・実習施設在籍者・卒業生

#### 1. ロンドン・エドワード・イーストン工場

石黒五十二 (1855.6.10-1922.1.14. 滞在：1879.5-83, 1900 〈ロンドン・エド  
ワード・イーストン工場→ロンドン土木工学院〉, British Association 会員)  
金沢出身, 公費留学, 私費留学, 公費個人視察, 目的：土木工学, 出身校：大  
学南校, 開成学校→東京大学理学部, 初勤務先：神奈川県土木課, 帰国後勤務  
先：内務省出仕兼東京大学理学部講師【資料】『文部省第七～十年報』, 『大  
日本博士録』, 渡辺実『日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

#### 2. スコットランド・ドッグ会社

川田龍吉 (竜吉：1856.3.14-1951.2.9. 滞在：1873-81 〈グラスゴウ大学→スコッ  
トランド・ドッグ会社〉) 土佐出身, 私費留学, 目的：工学 (造船技術) 系,  
帰国後勤務先：郵便汽船三菱会社所属造船鉄工所勤務【資料】北政巳『国際  
日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 北海道総務部行政資料

室『北海道開拓功労者関係資料集録』

### 3. マンチェスター機関車製造所

平岡熙 (1856.8.19-1934.5.6. 滞在: 1871.6-76.6 (アメリカ→マンチェスター機関車製造所)) 江戸芝出身, 私費留学, 目的: 工学 (鉄道車両, 機械類研究) 系, 帰国後勤務先: 工部省鉄道三等少師【資料】日本交通協会『鉄道先人録』, 日蘭学会『洋学史事典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』

### 4. ニューキャッスル造船所

水谷六郎 (亦六郎: 1848.12-1919.7.13. 滞在: 1872.1-75 (ニューキャッスル造船所)) 岡山出身, 私費留学, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 初勤務先: 工部省出仕, 帰国後勤務先: 工部省鉄道寮神戸工作分局一等技手【資料】田中誠一郎『備作人名辞典』, 『太政類典』

### 5. ニューキャッスル器械製造所

松田金次郎 (1845-1884.4.8. 滞在: 1870.10-78.6.11 (ニューキャッスル器械製造所)) 岡山出身, 私費留学, 公費留学, 目的: 工学系, 帰国後勤務先: 海軍省御用掛【資料】『太政類典』, 『明治過去帳』

### 6. アームストロング社

大久保立 (1871.4.23-1941.2.4. 滞在: 1895-99.7 (王立技術学校→アームストロング社エルジツク造船所→グラスゴウ大学→ロブニツ造船所)) 東京出身, 私費留学, 目的: 工学 (造船学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 海軍呉造船廠少技師【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 外山操『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『日本現今人名辞典』, cf. 田口卯吉「大久保一翁逝けり」『田口卯吉全集』, 「大久保一翁伝」『旧幕臣』3

中島正賢 (1868.10.1-1920.12.26. 滞在: 1894-98 (アームストロング社)) 埼玉県大里郡出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 東京高等工業学校, 初勤務先: 鉄道技手, 帰国後勤務先: 海軍造兵廠技師【資料】『日本人名大事典』

原田宗助 (1848.9-1909.9.25. 滞在: 1871-77 (ユニバーシティ・カレッジ [Harada, S. 確認在籍: 1872-73]), 1886.7.13-87.6.30 (グリニッジ海軍大学校、アーム

ストロング会社製鉄工場)) 鹿児島出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 軍事, 工学(造兵製鉄技術)系, 出身校: 海軍兵学寮, 初勤務先: 鉄道技手, 帰国後勤務先: 海軍省出仕【資料】『太政類典』, 『官吏進退索引』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

松田義一(1887.9-?. 滞在: 1912.2.19-14.11.6 <ヴィッカーズ社→アームストロング社)) 大阪出身, 私費留学, 目的: 工学(火砲製造)系, 出身校: 東京高等工業学校機械科, 初勤務先: 日本製鋼所, 帰国後勤務先: 日本製鋼所技手【資料】『日本製鋼所社史資料』(上), 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』, 『昭和人名事典』(1)

真野文二(1861.11-1946.10.17. 滞在: 1886-89.6 <グラスゴウ大学→アームストロング社)) 江戸出身, 公費留学, 目的: 工学(機械工学)系, 出身校: 工部大学校機械科, 初勤務先: 工部省出仕, 帰国後勤務先: 帝国大学工科大学教授→九州帝国大学総長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『沼津兵学校と其人材』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『ケルヴィン卿書簡集』

## 7. イーストマン(コダック)社(写真技術)

有藤金太郎(?-?. 滞在: 1894.2.24-96.5.16 <イーストマン社)) 私費留学, 目的: 経済→写真技術, 帰国後勤務先: 玄鹿館技師【資料】『日本写真史年表』

## 8. ヴィッカーズ社

阿部政次郎(1877.1-?. 滞在: 1911.2.16-12.11.4 <ヴィッカーズ社)) 愛知県出身, 私費留学, 目的: 工学(造船業)系, 出身校: 東京帝国大学工科大学機械工学科, 初勤務先: 三菱長崎造船所技士, 帰国後勤務先: 三菱長崎造船所技士【資料】『三菱長崎造船所史』(1), 『人事興信録』(第9版)

伊藤達三(1879.8.20-?. 滞在: 1905.11.28-09.10.29 <ヴィッカーズ社)) 神奈川県横浜出身, 私費留学, 目的: 工学(造船業)系, 出身校: 東京帝国大学工科大学造船学科, 初勤務先: 三菱長崎造船所技士, 帰国後勤務先: 三菱長崎造船所技師【資料】『近代防長人物誌』(天), 『三菱長崎造船所史』(1), 『帝国

大学出身名鑑』

岡本猛彦 (?-?. 滞在 : 1911.9.17-12.3.5 〈ヴィッカーズ社〉) 私費留学, 目的 : 工学 (製罐術研究) 系, 出身校 : 東京工業学校, 初勤務先 : 三菱長崎造船所造罐係, 帰国後勤務先 : 三菱長崎造船所技士【資料】『三菱長崎造船所史』(1)

古賀吉太郎 (?-?. 滞在 : 1899.10-1900.4, 1911.7.16-10.30 〈ヴィッカーズ社〉) 福岡県出身, 私費個人視察, 私費留学, 目的 : 工学 (鑄造業) 系, 出身校 : 東京工業学校機械科, 初勤務先 : 三菱長崎造船所造木型及鑄物係, 帰国後勤務先 : 三菱長崎造船所機関技士【資料】『三菱長崎造船所史』(1), 『東京工業大学百年史』

東馬三郎 (1883.3.21-?. 滞在 : 1911.12.22-15.8.12 〈ヴィッカーズ社→シェフィールド大学〉) 新潟県長岡出身, 私費留学, 目的 : 工学 (冶金学) 系, 出身校 : 京都帝国大学工科大学機械工学科, 帰国後勤務先 : 日本製鋼技師【資料】『日本製鋼社史資料』(上), 『昭和人名辞典』

細矢尚 (1884.4-?. 滞在 : 1911.4.2-15.5.18 〈ヴィッカーズ社〉) 東京麹町出身, 私費留学, 目的 : 工学系, 出身校 : 東京帝国大学工科大学, 初勤務先 : 日本製鋼技師, 帰国後勤務先 : 住友製鋼所副支配人工務部長【資料】『帝国大学出身名鑑』, 『大衆人事録』, 『日本製鋼社史資料』(上)

松田義一 (1887.9-?. 滞在 : 1912.2.19-14.11.6 〈ヴィッカーズ社→アームストロング社〉) 大阪出身, 私費留学, 目的 : 工学 (火砲製造) 系, 出身校 : 東京高等工業学校機械科, 初勤務先 : 日本製鋼所, 帰国後勤務先 : 日本製鋼所技手【資料】『日本製鋼所社史資料』(上), 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』, 『昭和人名事典』(1)

横山孝三 (1884.1-?. 滞在 : 1912.1.7-13.8.31 〈ヴィッカーズ社〉) 神奈川県出身, 私費留学, 目的 : 工学 (造船業) 系, 出身校 : 東京帝国大学工科大学, 初勤務先 : 三菱長崎造船所技士, 帰国後勤務先 : 三菱長崎造船所技士【資料】『三菱長崎造船所史』(1), 『昭和人名辞典』

## 9. ネイピア造船所 (ロバート・ネイピア会社)

三好晋六郎 (1857.7-1910.1.28. 滞在 : 1880.2.8-83.7 〈ロバート・ネイピア会



社→グラスゴウ大学)) 江戸出身, 公費留学, 目的: 工学(造船学)系, 出身校: 工部大学校機械科, 帰国後勤務先: 工部省御用掛(工部大学校出勤)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人人名大事典』

山尾庸三(1837.10.8-1917.12.22. 滞在: 1863.5-70(ネィピア造船所徒弟→ユニバーシティ・カレッジ[Yamarou, Y., 確認在籍: 1864-65]→アンダーソン・カレッジ[グラスゴウ大学]夜学)) 山口出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 明倫館, 帰国後勤務先: 民部権大丞・横須賀製鉄所事務取扱→工学寮(工部大学校)創立【資料】三好信浩「山尾庸三—国際日本を拓いた先駆者Ⅲ—」『(明治学院大学国際学部)国際学研究』3, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人人名大事典』

## 10. スティブソン社

杉甲一郎(?-?. 滞在: 1872.5-74.7.7, 1882.12-83.4.19(エジンバラ大学→スティブソン社灯台)) 東京出身, 公費留学, 私費留学, 目的: 灯台技術, 帰国後勤務先: 工部大学校図学助手→教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『公文録』, 石附実『近代日本の海外留学史』

## 11. マクラレン社(グラスゴウ)

増田礼作(1854-1917.11.27. 滞在: 1876.6.25-81(グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所[グラスゴウ]→ブライス・ガンピンク工場[エディバラ])) 大分県出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 日本鉄道会社師長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

南清(1856-1904.1.18. 滞在: 1880.2.8-83.2(グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所[グラスゴウ]→リオティント鉱山鉄道[スペイン]→カレドニアン鉄道[スコットランド])) 福島県会津出身, 公費留学, 目的: 工学(土木・鉄

道)系, 出身校: 工部大学校土木科, 帰国後勤務先: 工部省御用掛【資料】速水太郎『南清伝 村上亮一遺稿』, 村上享一『故工学博士南清君の経歴』, 村上享一「南清伝」『明治期鉄道史資料』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

## 12. ブライス・ガンピンク工場 (エディンバラ)

増田礼作 (1854-1917.11.27. 滞在: 1876.6.25-81 <グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所 [グラスゴウ] →ブライス・ガンピンク工場 [エディンバラ]>) 大分県出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 日本鉄道会社師長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

## 13. マザウエル鉄工所 (グラスゴウ)

高山直質 (?-1886.3.7. 滞在: 1880.2.8-82.11.6 <グラスゴウ大学→マザウエル鉄工所 [グラスゴウ]>) 熊本県出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械学) 系, 出身校: 工部大学校機械科, 帰国後勤務先: 工部省御用掛【資料】「高山直質氏之小伝」『工学会誌』53, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

## 14. ロブニッツ造船所

大久保立 (1871.4.23-1941.2.4. 滞在: 1895-99.7 <王立技術学校→アームストロング社エルジツク造船所→グラスゴウ大学→ロブニッツ造船所>) 東京出身, 私費留学, 目的: 工学 (造船学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 海軍呉造船廠少技師【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 外山操『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『日本現今人名辞典』, cf. 田口卯吉「大久保一翁逝けり」『田口卯吉全集』, 「大久保一翁伝」『旧幕臣』3

## 15. フェアフィールド造船所

杉山文七 (?-?. 滞在: 1903-04 <グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→

フェアフィールド造船所) 目的：蒸気機関, 海事工学, 帰国後勤務先：サルベージ事業のパイオニア【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

#### 16. キュービット建築会社

辰野金吾 (1853.8.22-1919.3.25. 滞在：1880.2.8-83.5 (キュービット建築会社、ロンドン大学→ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ [1886.7.-89.10])) 佐賀県唐津出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的：工学系 (建築学) 系, 出身校：工部大学校造家科 (第1回卒業生として荒川新一郎・石橋絢彦・高峰讓吉らと留学), 初勤務先：工部省御用掛 (営繕課出勤)【資料】白鳥省吾『工学博士辰野金吾伝』, 岸田日出刀『辰野金吾』, 辰野隆「父の思い出」『建築雑誌』72-844, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

#### 17. グラスゴウの郵便局

志田林三郎 (1855-1892.1.4. 滞在：1880.2.8-83.4 (グラスゴウの郵便局), 1883.9-83) 佐賀出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：工学 (電信学) 系, 出身校：工部大学校電信科, 帰国後勤務先：工部省御用掛 (電信局出勤)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『公文録』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

#### 18. カレドニアン鉄道

南清 (1856-1904.1.18. 滞在：1880.2.8-83.2 (グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所 [グラスゴウ] →リオティント鉱山鉄道 [スペイン] →カレドニアン鉄道 [スコットランド])) 福島県会津出身, 公費留学, 目的：工学 (土木・鉄道) 系, 出身校：工部大学校土木科, 帰国後勤務先：工部省御用掛【資料】速水太郎『南清伝 村上亮一遺稿』, 村上享一『故工学博士南清君の経歴』, 村上享一「南清伝」『明治期鉄道史資料』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

#### 19. ブールス兄弟商会 (ロンドン)

南貞助 (?-?. 滞在：1870.11-73 (ブールス兄弟商会)) 山口出身, 公費留学, 目

的：財政・金融，勤務先：ブルース兄弟商会（金融業）【資料】森谷秀亮「南貞助自伝『宏徳院御略歴』」『新旧時代』3-9，「廃藩以前旧長州藩人の洋行者」『防長史談会雑誌』1-6，『改正官員録』（明治19年），『太政類典』，尾崎三良『尾崎三良自叙略伝』，石附実『近代日本の海外留学史』，日本英学史学会編『英語事始』

## 20. ジョン・フラワー工務所，ベンジャミン・ベーカー工務所

渡辺嘉一（1858.2.8-1932.12.4. 滞在：1884.6.9-88〈グラスゴウ大学→ジョン・フラワー工務所・ベンジャミン・ベーカー工務所技師〉）長野県上伊那郡出身，私費留学，目的：工学（土木学）系，初勤務先：工部省鉄道局出勤，帰国後勤務先：日本土木会社技術部長【資料】『大日本博士録』，北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，『旧工部大学校史料』，『ケルヴィン卿書簡集』，渡辺実『近代日本海外留学生史』，『日本人名大事典』

## 21. パース・バンク（ロンドン）

井上準之助（1869.3.25-1932.2.9. 滞在：1897.10-99.4〈パース・バンク〉，1908.11-11.3）豊後日田出身，公費留学，公費個人視察，目的：財政・金融（銀行業務，ロンドンのパース・バンクに勤務），出身校：東京帝国大学法科大学英法科，初勤務先：日本銀行書記，帰国後勤務先：日本銀行検査役官：『青溪おち穂』【資料】白柳秀湖「井上準之助一代記」『中央公論』47-3，『井上準之助論叢』4巻付〈伝記〉，熊谷栄之助編『故井上準之助氏追悼録』，秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』，五十嵐栄吉『大正人名辞典』，『日本人名大事典』

## 22. ホチキス速射砲製造所

有坂鋳蔵（1868.1.11-1941.1.19. 滞在：1890.7-93〈ホチキス速射砲製造所〉，1898.8-1900.12，1907-09）江戸牛込出身，公費留学，公費個人視察，公費個人視察，目的：工学（造兵学研究）系，出身校：帝国大学工科大学，帰国勤務先：海軍少技士【資料】「有坂鋳蔵氏薨死」『人類学雑誌』56-2，海軍教育本部編『帝国海軍教育史』（7），『大日本博士録』，『日本人名大事典』

## 23. 繊維工場

山辺丈夫（1851.12.8-1920.5.14. 滞在：1877-80〈ユニバーシティ・カレッジ [Yamanobe, T., 確認在籍：1875-76, 1878-79：W.S.Jevons, 1878-79] → キングス・カレッジ→マンチェスター [1879.8.2-80.5]〉）津和野出身，私費留学，目的：経済・工学系，出身校：育英社，慶應義塾，初勤務先：大阪紡績業会社支配人【資料】石川次郎『孤山の片影』，庄司乙吉『山辺丈夫君小伝』，宇野米吉『山辺丈夫君小伝』，山辺定子編『須磨の松風』，『名流列伝』，宮本又次『大阪商人太平記—明治中期—』，『日本財界人物列伝』，井上琢智「近代経済学導入の一齣—W.S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』54，井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4)，『明治維新人名辞典』，『日本人名大事典』

## 第 35 節 日本企業ロンドン支店勤務<sup>22)</sup>

### 1. 横浜正金銀行ロンドン支店

一宮鈴太郎（1870.1.17-1954.12.29. 滞在：1888-06〈アメリカ・イギリス [横浜正金銀行ロンドン支店]〉，1906-21〈アメリカ〉）久留米出身，私費団体視察，私費個人視察，目的：財政・金融系，出身校：独逸学協会学校，初勤務先：横浜正金銀行員，帰国後勤務先：横浜正金銀行ロンドン支店詰【資料】五十嵐栄吉編『大正人名辞典』，『久留米人物誌』

日野昌造（1853.1-1904.12.6. 滞在：1881-91〈アメリカ→横浜正金銀行ロンドン支店〉）山口出身，私費団体視察，目的：財政・金融，出身校：大阪開成所，初勤務先：慶應義塾【資料】『近世防長人名辞典』

山川勇木（1855.3-?. 滞在：1887-91〈横浜正金銀行ロンドン支店〉）金沢出身，私費個人視察，目的：財政・金融，初勤務先：大蔵省紙幣寮，帰国後勤務先：横浜正金銀行本店副支配人【資料】五十嵐栄吉編『大正人名辞典』

22) 以下の第 35 節「日本企業ロンドン支店勤務」、第 36 節「各種国際会議出席」、第 37 節「イギリス在外公館」、第 38 節「イギリス大使館付武官」、第 39 節「ロンドン駐在財務官」は留学先ではないが、その役割の重要性に鑑み、本資料に収録した。

## 2. 大倉組ロンドン支店

門野重九郎 (1867.9.9-1958.4.24. 滞在 : 1891-96, 1898-07 〈ペンシルバニア鉄道会社→大倉組ロンドン支店〉) 三重県鳥羽出身, 私費留学, 私費団体視察, 目的 : 工学系, 経済, 出身校 : 慶應義塾, 帝国大学工科大学, 帰国後勤務先 : 山陽鉄道会社技師【資料】門野重九郎『平々凡々九十年』, 藤原楚水『現代財界人物』, 『日本人名大事典』, 『国史大辞典』

横山孫一郎 (?-?. 滞在 : 1872, 1875-79 〈大倉組ロンドン支店 : 笠原研寿に英語教授〉, 1880-81) 上野国邑楽郡出身, 私費留学, 私費団体視察, 私費団体視察, 目的 : 経済, 出身校 : 品川忠道に師事【資料】南条文雄『懐旧録』, 『日本現今人名辞典』

## 3. 三井物産ロンドン支店

岩原謙三 (1863.10.21-?. 滞在 : 1883-87 〈三井物産ロンドン支店〉) 金沢出身, 私費個人視察, 目的 : 経済, 出身校 : 大阪英語学校, 初勤務先 : 共同運輸会社社員, 帰国後勤務先 : 三井物産会社大阪支店副支配人【資料】五十嵐栄吉編『大正人名辞典』

渡辺専次郎 (1860.8.13-1916.9.26. 滞在 : 1882) 神奈川県出身, 私費個人視察, 目的 : 経済, 初勤務先 : 三井物産社員【資料】『大正過去帳』

## 4. 日本郵船会社ロンドン支店

田坂友吉 (1872.2-?. 滞在 : 1906-09.5 〈日本郵船会社ロンドン支店〉) 新潟県佐渡出身, 私費個人視察, 目的 : 経済, 初勤務先 : 日本郵船会社, 帰国後勤務先 : 日本ペイント会社【資料】遠間平一郎『財界一百人』, 五十嵐栄吉編『大正人名辞典』

## 5. 東京海上保険

各務鎌吉 (1868. 〈1〉-1939.5.27. 滞在 : 1893-〈東京海上保険〉) 美濃出身, 出身校 : 東京商業学校, 勤務先 : 東京海上保険ロンドン支店派遣, リバプールとグラスゴウの代理店整理【資料】宇野木忠『各務鎌吉』, 岩井良太郎『各務鎌吉伝・加藤武男伝』, 福沢桃介『財界人物我観』

## 第 36 節 各種国際会議出席

### 1. ロンドン電信会議

中野宗宏 (?-?. 滞在：1879.4.9-80.1.3〈ロンドン電信会議〉) 肥前出身，公費団体視察，目的：工学系，初勤務先：工部省電信寮九等出仕，帰国後勤務先：工部一等技手【資料】「故正六位中野宗宏君履歴」『電気学会雑誌』8-47，『工部省沿革報告』，『掌中官員録』（明治7年版）

### 2. ロンドン博覧会

園田孝吉 (1847-1923.9.1. 滞在：1874.1.12-79〈ロンドン博覧会〉，1881-88.1，1888.5-89) 薩摩出身，公費団体視察，目的：全般・外交交渉，財政・金融，出身校：大学南校，初勤務先：外務省出仕，帰国後勤務先：横浜正金銀行，第十五銀行頭取など【資料】山路愛山「園田孝吉」『現代富豪論』，荻野仲三郎『園田孝吉伝』，『日本財界人物列伝』，『太政類典』，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，『日本人名大事典』，『国史辞典』

富田淳久 (?-?. 滞在：1873-74.10，1875-?〈ロンドン博覧会〉：ウィーン万国博覧会、ロンドン博覧会) 大村出身，公費団体視察，公費団体視察，目的：工学系，全般・外交交渉【資料】『改正官員録』（明治19年版），『公文録』，『太政類典』

### 3. ロンドン万国衛生博覧会

永井久一郎 (1851-1913.1.29. 滞在：1871-73.11，1884.5.17-85.9.24〈アメリカ→ロンドン万国衛生博覧会〉) 尾張愛知郡鳴尾村出身，公費留学，公費個人視察，目的：人文系，出身校：大学南校【資料】「故永井久一郎氏の衛生行政論」『水道協会雑誌』81，『日本現今人名辞典』，『公文録』，『太政類典』，『日本人名大事典』

### 4. ロンドン万国発明品博覧会

尾崎逸足 (?-?. 滞在：1885〈ロンドン万国発明品博覧会〉) 岐阜出身，公費個人視察，目的：全般・外交交渉【資料】『改正官員録』（明治18年版），『公文録』

安田定則 (1844.6.17-1892.3.8. 滞在：1885.3.6-85〈ロンドン万国発明品博覧

会)) 薩摩出身, 公費団体視察, 目的: 経済, 出身校: 造士館【資料】福地徳「安田定則の書簡—森有礼宛—」『伝記』8-2, 『公文録』, 『太類典』, 『明治過去帳』

吉田正秀 (?-?. 滞在: 1883, 1885-86 (清国→ロンドン万国発明品博覧会)) 江戸出身, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的: 工学系【資料】田村栄太郎『日本電気技術者伝』, 『公文録』, 『太類典』, 『明治過去帳』

渡瀬寅次郎 (?-?. 滞在: 1885-86 (ロンドン万国発明品博覧会)) 静岡県出身, 公費団体視察, 目的: 経済, 出身校: 札幌農学校, 初勤務先: 札幌県御用係, 帰国後勤務先: 茨城県尋常中学校校長【資料】渡瀬昌勝「渡瀬寅次郎伝」『渡瀬同族』, 『公文録』, 『北大百年史』, 『日本現今人名辞典』

## 5. エジンバラ万国森林博覧会

高島得三 (北海: 1850.9.26-1931.1.10. 滞在: 1884.4-88.5 (エジンバラ万国森林博覧会), 1904-05.2, 1906 (ナンシー森林学校・エジンバラ万国森林博覧会・フランス・ドイツ、アメリカ、清国)) 山口県出身, 公費団体視察・公費留学, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的: 農学 (山林学) 系, 出身校: 明倫館, 初勤務先: 工部省鉱山寮出仕, 帰国後勤務先: 農商務省技師試補: 『欧州巡回見聞記事』【資料】『公文録』, 『日本人名大事典』

武井守正 (1842.3.25-1926.12.4. 滞在: 1884.5-85.6.12 (エジンバラ万国森林博覧会)) 兵庫県姫路出身, 公費団体視察, 目的: 農学 (森林制度視察) 系, 出身校: 好古堂, 帰国後勤務先: 農商務省山林局長【資料】『男爵武井守正翁伝』, 『公文録』, 『日本人名大事典』

## 第 37 節 イギリス在外公館<sup>23)</sup>

青木周蔵 (1844.1.15-1914.2.16: 滞在: イギリス特命全権公使 (1894.2.22)) 山口県大島郡出身, 公費個人視察, 目的: 法律, 出身校: 東京帝国大学, 帰国後勤務先: 農商務省山林局長【資料】「青木周蔵」『建築雑誌』28-327, 板根義久「青木周蔵の憲法草案について」『國學院雑誌』66-5, 秦郁彦『戦前期日

23) 詳細は【付録 I】を参照のこと。



本官僚制の制度・組織・人事』、『公文録』、『太政類典』、『日本人名大事典』

安藤劉太郎→関信三

井上勝之助(1861.7.11-1929.11.3. 滞在：1871.3-79.3〈ロンドン・スクース・オブ・ポリティカル・エコノミー〉)山口出身,公費留学(岡林篤馬・木戸正之助・豊原百太郎・長松修蔵・正木退蔵・山口武らと同行),目的：法律,財政・金融(実務),帰国後勤務先：大蔵省雇→イギリス特命全権大使(1913.6.18)→ジャパン・ソサエティ会長【資料】『世外井上公伝』(5),秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』、『太政類典』、『日本人名大事典』

上野景範(1844.12.1-1888.4.11. 滞在：1868.3-69.5〈香港〉、特命全権公使(1874.10.13))薩摩出身,公費個人視察(造幣器機購入・造幣製造監督)【資料】秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』、『太政類典』、『明治維新人名辞典』、『日本人名大事典』

内田康哉(1865〈8.10〉-1936.3.12. 滞在：公使館二等書記官,臨時代理公使(1893.12.20))肥後出身,出身校：同志社・広取英語学校(熊本)・東京大学,初勤務先：外務省(ワシントン赴任)【資料】『内田康哉』,朝比奈知泉他「人物評論 16 -加藤高明と内田康哉-」『中央公論』反省社,266,「露国大使を辞任せる内田康哉子」『中央公論』中央公論社,33-9,馬場恒吾「内田康哉論」,『日本人名大事典』

大山綱介(?-?, 滞在：外務書記官,臨時代理公使(1884.2.26))

岡部長職(1854.11-1925.12.27. 滞在,1875.10-83.10〈エール大学→ケンブリッジ大学〉,1888-89〈公使館参事官〉)大阪岸和田出身,私費留学,目的：法律【資料】小山騰『破天荒(明治留学生)列伝』,秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』

音見清兵衛→河瀬真孝

加藤高明(1860.1.3-1926.1.28. 滞在：1883.4-85.8,特命全権公使(1895.3.23)→特命全権大使(1908.2.11))名古屋出身,私費留学,目的：経済出身校：東京大学法学部,初勤務先：三菱会社函館支店詰め,帰国後勤務先：三菱会社本社詰【資料】『加藤高明』,渡辺実『近代日本海外留学生史』,『日本人名大

事典』

河瀬真孝（音見清兵衛：1840.2.9-1919.10.29. 滞在：1867-71, 1871-73〈ユニバーシティ・カレッジ [Otori, K.S., 確認在籍：1872-73], 特命全権公使 [1884.11.10] →特命全権公使 [1889.11.20]〉）山口出身, 公費留学, 目的：軍事, 帰国後勤務先：工部少輔【資料】林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』(4), 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

小池張造 (?-?, 滞在：大使館参事官：臨時代理大使 (1913.1.12))

小村寿太郎 (1855.9.16-1911.11.26, 特命全権大使使 (1906.8.16)) 宮崎県出身, 出身校：東京開成学校【資料】中山武夫『小村寿太郎伝』, 榎本卯平『小村寿太郎』, 安井小太郎『小村寿太郎侯略伝』, 『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

鮫島尚信（誠蔵, 野田仲平：1845.3.10-1880.12.4, 滞在：1865.3-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ [Noda, 確認在籍：1865-67 : A.W.Williamson]）薩摩出身, 公費留学, 目的：法律, 出身校：何礼之に師事, 帰国後勤務先：外国官権判事【資料】鮫島文書研究会編『鮫島尚信在欧外交書簡録』, 林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』(4), 『鹿児島県史』(3), 『薩藩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『太政類典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

沢井鉄馬→森有礼

珍田捨巳 (1856.12.24-1929.1.16, 特命全権大使 (1916.7.20)) 津軽出身, 出身校：東奥義塾, 帰国後勤務先：東奥義塾教師【資料】菊池武徳『伯爵珍田捨巳伝』, 『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

寺島宗則 (1832.5.23-1983.6.7, 1861.12-1862.12, 18, 大弁務使 (1872.5.17) →特命全権公使 (1873.2.20)) 薩摩出身, 出身校名：造士館, 適塾, 初勤務先：蕃所調所手第, 帰国後勤務先：参与外国事務掛【参考】朝比奈知泉『明治功臣録玄』, 深谷博治「慶応元年滞英中の寺島宗則の書簡」『明治文化』15-6, 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『明治維新人名辞典』, 『日

本人名大事典』

富田鉄之助(1835.10.16-1916.2.27, 滞在:外務一等書記官:臨時代理公使(1879.5.9))

仙台出身, 公費留学(アメリカ), 目的: 財政・金融(経済学) 【資料】「富田鉄之助君薨去」『大日本農会報』417, 「富田鉄之助断簡」『仙台郷土史』7-10, 『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『公文録』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

永井松三(?-?, 滞在: 大使館参事官: 臨時代理大使(1920.8.21))

本野盛亨(1836(8.19) - 1909.12.10) 佐賀出身, 出身校: 致遠館・適塾, 目的: 経済, 勤務先: 神奈川県御用掛→租税権助→大蔵省租税寮租税助→外務一等書記官: 臨時代理公使(1873.4.14-76.8) →大蔵省租税寮租税助→横浜税関長→大蔵省権大書記官兼務→大蔵大書記官→検事→読売新聞社長(1889-1909) 【資料】『佐賀県・歴史人名辞典』, 『公文録』, 『太政類典』, 『日本近現代人物履歴事典』

林権助(1860(3.2)-1939.6.27. 滞在: 1894-97) 会津出身, 外交, 目的: ロンドン領事, 出身校: 帝国大学法科大学, 初勤務先: 外務省(翻訳局・通商局), 帰国後勤務先: 北京主席書記官→ロンドン大使 【資料】林権助『わが七十年を語る』, 鶴崎鷺城等「新任石井駐米大使と帰任林駐支公使」『中央公論』33-4(大正7), 『日本人名大事典』

林董(桃三郎: 1850.2.22-1913.7.10. 滞在: 1866.10-68.6(ユニバーシティ・カレッジ・スクール[W.V. ホイド]), 1871.12.23-72.5, 1882.6-83.2) 江戸佐倉藩出身, 公費留学, 公費団体視察, 公費団体視察, 出身校: ヘボン塾, 帰国後勤務先: 神奈川県出仕, 特命全権公使(1900.7.6) →(公使館から大使館へ昇格) →特命全権大使(1905.12.2) 【資料】林董『後は昔の記』, 「故前会長伯爵林董君略伝」『電気学会雑誌』33-302, 原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究一」『歴史地理』79-5, 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『公文録』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

松井慶四郎(?-?, 滞在: 臨時代理公使(1899.4.17) →特命全権大使(1925.8.18))

【資料】「外交舞台当面の三花形」『中央公論』33-13

松木弘安→寺島宗則

陸奥広吉 (1869.3-1942.11.19. 滞在：1887-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Mutsu, H., 確認在籍:1887-88] →ケンブリッジ大学 [Trinity Hall, 1888.10-12 →所属無, 1890]〉 →インナー・テンプル) 彦根出身, 私費留学, 目的：法律 (barrister at law 〈1893.11.17〉), 出身学校：東京大学法学部, 帰国後勤務先：東京大学講師, 代言人→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加, 臨時駐英大使 (1907) 【資料】都市問題研究会鎌倉班「陸奥広吉と同人会」『思想の科学』1926.1, 小山騰『破天荒 (明治留学生) 列伝』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 下重暁子『純愛—エセルと陸奥家の人々—』, 『日本人名大事典』

森有礼 (金之丞、沢井鉄馬：1847.8-1889.2.12. 滞在：1865.3-68.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Savai, 確認在籍：1865-66：W.Williamson], 1870-73.7, 1879-84, 特命全権公使 [1885]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的：工学系, 出身校：造士館, 鹿児島開成所, 初勤務先：外国官権判事 【資料】大久保利謙編『森有礼全集』, 徳富猪一郎『森有礼君』, 海門山人『森有礼』, 『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 『太政類典』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 犬塚孝明『若き森有礼—東と西の狭間で—』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

山座円次郎 (?-?. 滞在：大使館参事官：臨時代理大使 (1908.9.21))

吉田伊三郎 (?-?. 滞在：大使館参事官：臨時代理大使 (1925.8.1))

### 第 38 節 イギリス大使館付武官<sup>24)</sup>

東乙彦 (1900.10.18-1965.11.27. 滞在：?-?) 【資料】重松一義『東邦彦の行刑思想』, 『日本近現代人物履歴事典』, 日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』

安保清種 (1870.10.15-1948.6.8. 滞在：1900.4-00.12, 1905.12-08.4 〈グリニッジ海軍大学校〉, 1913.3-15.7) 佐賀県出身, 公費団体視察, 公費留学, 公費個人視察, 目的：軍事, 出身学校：海軍兵学校, 先勤務先：海軍少尉, 帰国後勤務先：海軍軍司令部副官 【資料】日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・

24) 詳細は【付録 I】および『日本陸海軍の制度・組織・人事』(1972、東大出版会)を参照のこと。

- 組織・人事』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『日本人名大事典』
- 飯田久恒(1869.10.10-1956.10.15. 滞在:1908.3-1910) 東京出身, 公費留学, 目的: 軍事, 出身校: 海軍兵学校, 海軍大学校, 初勤務先: 海軍少尉, 帰国勤務先: 海軍中佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 海軍教育本部『大正海軍教育史』(7)
- 伊地知幸介(1854.1.6-1917.1.23. 滞在:1880.5-82.12.28〈ドイツ〉, 1884.2-88.6〈ドイツ〉, 1898-1900〈イギリス〉) 鹿児島県出身, 公費留学, 目的: 軍事, 出身校: 陸軍士官学校, 初勤務先: 陸軍砲兵少尉, 帰国後勤務先: 陸軍歩兵中尉【資料 I】『公文録』, 『太政類典』, 『大日本人名辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』
- 伊月一郎(江戸一郎:1848.11.7-1891.6.3. 滞在:1870.3-75, 1878-79, 1888-91.3) 江戸徳島藩邸出身, 公費留学, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的: 軍事(海軍留学生第一号: 前田十郎左衛門と同行), 出身校: 海軍兵学校, 帰国後勤務先: 海軍大尉→海軍大佐【資料】『公文録』, 『太政類典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 『明治過去帳』
- 伊丹松雄(1875.9.22-1958.6.23. 滞在:1906-08.3, 1910.10-11) 薩摩出身, 公費個人視察, 目的: 軍事, 出身校: 陸軍士官学校, 初勤務先: 陸軍歩兵少尉・帰国後勤務先: 陸軍歩兵少佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』
- 井出謙治(1870.5.9-1946.10.30. 滞在:1899.5-01) 静岡出身, 公費留学・目的: 軍事(海軍戦略), 出身校: 海軍兵学校, 初勤務先: 海軍少尉, 帰国後勤務先: 海軍少佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 海軍教育本部『大正海軍教育史』(7)
- 稲垣三郎(1870.5.6-1953. 滞在:1910-17) 島根出身・公費個人視察・目的: 軍事, 出身校: 陸軍士官学校, 陸軍大学校, 初勤務先: 陸軍騎兵少尉, 帰国後勤務先: 陸軍少将【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』
- 宇都宮太郎(1861.3.18-1922.1.15. 滞在:1901.1-06.3〈イギリス公使館付〉)

肥前出身, 公費個人視察, 目的: 軍事, 出身校: 陸軍士官学校, 陸軍大学校, 初勤務先: 陸軍歩兵少尉, 帰国後勤務先: 陸軍大佐【資料】宇都宮徳馬「弱い者の味方」『朝日ジャーナル』1964.6.14, 日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

江戸一郎→伊月一郎

遠藤喜太郎 (1856.2.16-1902.7.16. 滞在: 1875.6-81 <イギリス>, 1887.10.11-88.10.19 <ヨーロッパ>) 金沢出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 軍事 (砲術), 各国海軍状況使節, 出身校: 海軍兵学校, 帰国後勤務先: 海軍中尉【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『公文録』, 『太政類典』, 『官吏進退索引』

岡本連一郎 (?-?. 滞在: ?-?)【資料】日本近代史料研究所『日本陸海軍の制度・組織・人事』

小栗孝三郎 (1868.8.4-1944.10.15. 滞在: 1903.2-04.3, 1904.6-04.11, 1906.2-07) 金沢出身, 私費個人視察, 目的: 軍事 (海軍軍政), 出身校: 海軍兵学校, 海軍大学校, 初勤務先: 海軍少尉, 帰国後勤務先: 海軍中佐軍令部参謀【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7)

加藤寛治 (1870.10.2-1909.2.9. 滞在: 1899.5-02.6) 福井出身, 公費留学, 目的: 軍事, 出身校: 攻玉社, 海軍兵学校, 海軍大学校, 初勤務先: 海軍少尉, 帰国後勤務先: 海軍大尉【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『日本人名大事典』

鏑木誠 (1857.8-1919.4 : 滞在: 1890-92 <フランス>, 1898.3-1900.3 <イタリア>, 1904.3-05.12 <イギリス>) 下総出身, 公費団体視察, 公費個人視察, 公費個人視察, 目的: 軍事 (イタリア公使付→イギリス公使館付), 出身校: 陸軍士官学校, 陸軍大学校, 初勤務先: 陸軍歩兵少尉, 帰国後勤務先: 陸軍大佐【資料】外山操『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『千潟町史』

河原要一 (1850-1926.12.17 : 滞在: 1885.9-86.9, 1890.10-93 <イギリス公使館付>) 薩摩出身, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的: 軍事, 出身校: 海軍兵

学校【資料】『海軍大佐従五位河原要一』、『公文録』、外山操『陸海軍将官人事総覧』（海軍編）、『日本人名大事典』

黒岡帯刀（1851.8.2-1927.12.19. 滞在：1870.12.3-73.7.23, 1880.12-83.2）薩摩出身、公費留学、公費団体視察、目的：軍事、出身校：造士館、帰国後勤務先：海軍少尉補【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』（7）、梅溪昇「黒岡帯刀の英国留学について」『日本近代化の諸相』、石附実『近代日本の海外留学史』、渡辺実『近代日本海外留学生史』、『日本人名大事典』

小林躋造（1877.10.1-1962.7.4. 滞在：1900.8.25-01.4.15 〈イギリス〉、1911.9.13-13.9 〈イギリス・アメリカ〉）広島県出身、公費団体視察、公費留学、目的：軍事、出身校：海軍兵学校、海軍大学校、初勤務先：海軍少尉、帰国後勤務先：海軍中尉【資料】宗代作『小林躋造伝』、水野広徳「新台湾総督小林躋造」『中央公論』51-10、『海軍大将小林躋造覚書』、日本近代研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』、『日本人名大事典』

柴五郎（志波：1860.7-1945.12.13. 滞在：1894.3-98.12 〈イギリス〉、1900.3-01.3 〈清国〉、1906.3-08.12 〈イギリス〉）会津出身、公費個人視察、目的：軍事、出身校：陸軍士官学校、初勤務先：陸軍砲兵少尉、帰国後勤務先：陸軍砲兵大尉【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』、『日本人名大辞典』

塩沢幸一（?-?. 滞在：?-?）【資料】「故塩沢会長追悼号」『信武』、日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』

田中国重（1869.12.17-1941.3.9. 滞在：1906.2-10.9）鹿児島県出身、公費個人視察、目的：軍事、出身学校：陸軍士官学校、陸軍大学校、初勤務先：陸軍騎兵少尉、帰国後勤務先：陸軍騎兵中佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』、『日本人名大事典』

枡内曾次郎（1866.6.8-1932.7.12. 滞在：1897.12-99.5, 1905.12-09.5 〈イギリス大使館付〉）岩手出身、公費団体視察、公費個人視察、目的：軍事、出身校：攻玉社、海軍兵学校、海軍大学校、初勤務先：海軍少尉、帰国後勤務先：海軍少佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』、『日

本人名大事典』

豊田貞次郎 (1885.8.7-1961.11.21. 滞在：1911.12-14.10) 和歌山出身, 公費留学, 目的：法律, 出身学校：海軍兵学校, 海軍大学校, 初勤務先：海軍少尉, 帰国後勤務先：海軍省出仕【資料】日本ウジミナス編刊『豊田貞次郎回想録』, 永田一角「豊田と左近司」『改造』23-6, 白木正之「豊田と鈴木」『改造』23-9, 日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』  
鳥巢玉樹 (?-?. 滞在：?-?)【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』

二宮治重 (?-?. 滞在二?-?)【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』

八田裕次郎 (1849.11.17-1930.1.23 : 滞在：1871.2-81.5, 1884.4.27-90 <イギリス公使館付→フランス公使館付>) 福井出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的：軍事, 出身校：海軍兵学校【資料】『公文録』, 『太政類典』, 外山操『陸海軍将官人事総覧』(海軍編)

船越揖四郎 (?-?. 滞在：?-?)【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』

栢内曾次郎 (1866.6.8-1932.7.12 : 滞在：1897.12-99.5, 1905.12-09.5 <イギリス大使館付>) 岩手出身, 公費団体視察, 公費個人視察, 目的：軍事, 出身校：海軍兵学校, 海軍大学校、攻玉社, 初勤務先：海軍少尉, 帰国後勤務先：海軍少佐【資料】日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

### 第 39 節 ロンドン駐在財務官

児玉秀雄 (1876.7.19-1947.4.7. 滞在：1901.4-02.12 <ロンドン駐在財務官>) 熊本出身, 公費個人視察, 目的：財政・金融, 出身校：東京帝国大学法科大学, 初勤務先：大蔵省属帰国後勤務先：大蔵省試補【資料】山浦貫一「時の人物一町田・児玉・吉田・小栗一」『改造』16-13, 阿部真之助「林内閣人物月旦一山崎・河原田・伍堂・塩野・児玉一」, 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・



組織・人事』, 畠中惣治郎『帝都紳士淑女列伝』, 『日本人名大事典』

---

【付録 I】イギリス駐在外交官（明治 17 年－ 24 年）<sup>25)</sup>

1) 1885 年 2 月 29 日改正

①特命全権公使：森有礼, 書記官：河上房申（滋賀）, 書記生：伊集院兼良（鹿児島）

②ロンドン領事館：領事：園田孝吉（鹿児島）, 書記生：関口雄（長野）, 大越成徳（東京）

2) 1886 年 2 月 1 日調

①特命全権公使：河瀬真孝（山口）, 書記官：大山綱介（鹿児島）, 書記生：中田敬義（石川）, 伊集院兼良（鹿児島）, 川崎寛美（鹿児島）, 員外書記：佐々木高美（東京）

②ロンドン領事館：領事：園田孝吉（鹿児島）, 書記生：関口雄（長野）, 大越成徳（東京）

3) 1886 年 8 月 31 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）, 書記官：大山綱介（鹿児島）, 書記生：中田敬義（石川）, 伊集院兼良（鹿児島）, 川崎寛美（鹿児島）, 員外書記：佐々木高美（東京）, 前田利武（東京）

②領事館：領事：園田孝吉（鹿児島）, 書記生：大越成徳（東京）, 鶴原定吉（福岡）

4) 1888 年 4 月 25 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）, 参事官：岡部長職（東京）, 交際官試補：中田敬義（石川）, 佐々木高美（東京）, 前田利武（東京）, 鍋島桂次郎（不明）

---

25) この【付録 I】の記述に当たっては、『外務省職員録』（明治 17 年－ 24 年）を利用した。なお、『外務省の百年史』（上巻, 1969）の第 14 章「外務省職員録」には、①明治 17 年 2 月 29 日調、②明治 37 年 8 月調、③大正 10 年 1 月編纂の名簿が収められている（1493-1541 頁）。

②領事館：総領事：吉田二郎（埼玉），領事：園田孝吉（鹿児島），交際官試補：荒川己次（鹿児島），呉大五郎（長崎）

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

5) 1888 年 10 月 15 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口），参事官：岡部長職（東京），交際官試補：中田敬義（石川），佐々木高美（東京），前田利武（帰国中），鍋島桂次郎（不明）

②領事館：領事：園田孝吉（鹿児島），交際官試補：荒川己次（鹿児島），呉大五郎（長崎）

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

6) 1889 年 9 月 1 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口），参事官：岡部長職（東京），書記官：中田敬義（石川），交際官試補：佐々木高美（東京），前田利武（東京），鍋島桂次郎（不明）

②領事館：総領事：吉田二郎（埼玉），領事：園田孝吉（帰朝），副領事：松岡郁之進（山口），交際官試補：荒川己次（帰朝），呉大五郎（長崎）

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン（Brown）

7) 1889 年 9 月 1 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口），参事官：岡部長職（東京），書記官：中田敬義（石川），交際官試補：佐々木高美（東京），前田利武（東京），鍋島桂次郎（不明）

②領事館：総領事：吉田二郎（埼玉），領事：園田孝吉（帰朝），副領事：松岡郁之進（山口），交際官試補：荒川己次（帰朝），呉大五郎（長崎）

③リヴァプール領事館：J.L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン（Brown）

8) 1890 年 1 月 25 日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口），書記官：中田敬義（石川），交

際官試補：前田利武（東京）、鍋島桂次郎

②領事館：総領事：吉田二郎（埼玉）、領事：園田孝吉（帰朝）、副領事：松岡郁之進（山口）、呉大五郎（長崎）

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン（Brown）

9) 1891年3月18日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）、書記官：島村久（岡山）、交際官試補：鍋島桂次郎（不明）、井上陳政（不明）

②領事館：総領事：吉田二郎（埼玉）、領事：大越成徳（東京）、副領事：松岡郁之進（山口）、呉大五郎（長崎：在リヴァプール）

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン（Brown）

10) 1892年

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）、書記官：佐藤愛暦（青森）、交際官試補：秋山雅之助（東京）、書記生：森川季四郎（東京）

②ロンドン：総領事：大越成徳（東京）、書記生：呉大五郎（長崎）、田結柳三郎

11) 1893年12月15日調

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）、二等書記官：内田康哉（熊本）、三等書記官：秋山雅之助、書記生：森川季四郎

②領事館：一等領事：林権助（福島）、書記生：呉大五郎（長崎）、田結柳三郎

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン（Brown）

12) 1893年12月15日調・1894年3月31日改正

①公使館：特命全権公使：河瀬真孝（山口）→青木周蔵、二等書記官：内田康哉（熊本）、三等書記官：秋山雅之助、書記生：森川季四郎

②領事館：一等領事：呉大五郎（長崎）、書記生：田結柳三郎

③リヴァプール領事館：J. L. ポース（Bowes）

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン (Brown)

13) 1895 年 10 月 31 日

①公使館：特命全権公使：加藤高明，二等書記官：国府寺新作（東京平民），  
三等書記官：伊集院彦吉（鹿児島）

②領事館：一等領事：林権助（福島），書記生：田辺熊三郎（長崎平民），田  
結鋏三郎

14) 1896 年 5 月 1 日調

①特命全権公使：加藤高明，二等書記官：国府寺新作（東京平民），三等書記  
官：伊集院彦吉（鹿児島），山座圓次郎

②領事館：一等領事：林権助（福島），書記生：田辺熊三郎（長崎平民），山  
下芳太郎（愛媛）

15) 1896 年 10 月 1 日調

①特命全権公使：加藤高明，一等書記官：林権助，三等書記官：山座圓次郎，  
外交官補：飯島亀太郎，武官：柴五郎（陸軍），遠藤喜太郎（海軍）

②領事館：一等領事：荒川己次（鹿児島），領事官補：加藤本四郎，書記生：  
田辺熊三郎

③リヴァプール領事館：J. L. ポース (Bowes)

④グラスゴウ領事館：アルベルトリ・チャード・ブラウン (Brown)

16) 1897 年 4 月 15 日調

①公使館：特命全権公使：加藤高明，一等書記官：林権助，三等書記官：山座  
圓次郎，外交官補：飯島亀太郎，白須直（大分），武官：柴五郎（陸軍），  
細谷資氏（海軍）

②領事館：一等領事：荒川己次（鹿児島），領事補：加藤本四郎，山下芳太郎  
（愛媛）

17) 1897 年 12 月 25 日調

①公使館：特命全権公使：加藤高明，一等書記官：林権助，二等書記官：山  
座圓次郎，外交官補：小池張造，書記生：白須直（大分），武官：柴五郎  
（陸軍），向山慎吉（海軍）

②ロンドン領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：加藤本四郎, 山下芳太郎

18) 1898年4月21日調

①公使館：特命全権公使：加藤高明, 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：

山座圓次郎, 外交官補：小池張造, 書記生：白須直(大分), 武官：柴五郎(陸軍), 向山慎吉(海軍)

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：加藤本四郎, 書記生：山下芳太郎

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラ領事館：Waynman Dixon

19) 1899年8月4日調

①公使館：特命全権公使：加藤高明, 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：

松方正作, 外交官補：小池張造, 書記生：白須直(大分), 武官：伊地知幸介(陸軍), 川島今次郎(海軍)

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：幣原喜重郎, 書記生：山下芳太郎

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラ領事館：Waynman Dixon

20) 1900年8月4日調

①特命全権公使：加藤高明(帰国中), 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：

松方正作, 外交官補：小池張造, 書記生：白須直(大分), 武官：伊地知幸介(陸軍), 川島今次郎(海軍)

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：幣原喜重郎, 書記生：山下芳太郎

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラ領事館：Waynman Dixon

21) 1901年5月調

①特命全権公使：林董, 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：松方正作, 船越

光之丞, 書記生：浮田郷次, 武官：宇都宮太郎(陸軍), 玉利親賢(海軍)

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：諸井六郎, 書記生：染谷成幸

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラー領事館：Waynman Dixon

22) 1901 年 10 月

①特命全権公使：林董, 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：阿部守太郎,  
外交官補：小幡西吉, 書記生：浮田郷次, 武官：宇都宮太郎（陸軍）, 玉  
利親賢（海軍）

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：有吉明, 書記生：染谷成幸

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラー領事館：Waynman Dixon

23) 1902 年

①特命全権公使：林董, 一等書記官：松井慶四郎, 二等書記官：阿部守太郎,  
外交官補：小幡西吉, 書記生：浮田郷次, 武官：宇都宮太郎（陸軍）, 玉  
利親賢（海軍）

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：有吉明, 書記生：染谷成幸, 住谷壽  
三郎

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミッドルス・バラー領事館：Waynman Dixon

24) 1902 年 11 月

①特命全権公使：林董, 一等書記官：松井慶四郎, 松方正作, 三等書記官：船  
越光之丞, 外交官補：小池張造, 書記生：浮田郷次, 武官：川島令次郎  
（海軍）

②領事：一等領事：荒川己次, 領事官補：幣原喜重郎, 諸井六郎, 書記生：山  
下芳太郎, 染谷成幸

③リヴァプール領事館：J. L. Bowes

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミツドルス・バラー領事館：Waynman Dixon

25) 1903年8月(調)

①特命全権公使：林董, 二等書記官：阿部守太郎, 小池張造, 三等書記官：小幡酉吉, 外交官補：高橋梅太郎, 松平恒雄, 書記生：浮田郷次, 武官：宇都宮太郎、鎗木誠

②総領事：荒川己次, 書記生：住谷森三郎, 槍田麟太郎

③リヴァプール領事館：P. E. J. Hemelrik

④グラスゴウ領事館：Arbert Richaard Brown

⑤ミツドルス・バラー領事館：Waynman Dixon

26) 1922年1月(編纂)

①特命全権大使：林権助, 参事官：永井松三, 二等書記官：斉藤博, 坪上貞二, 朝岡健, 三等書記官：西沢義徹, 田村幸策, 松宮順, 岡田兼一, 吉沢清次郎, 外交官補：岡本季正, 山県清, 佐々木勝三郎, 書記生：柚木彦五郎, 田島諫, 木村朝之輔, 笠原三郎

②リヴァプール領事館：領事補：坂根準三, 書記生：久我成美

**【付録Ⅱ】明治4年9月英国留学生姓名<sup>26)</sup>**

[官費之部]

a) 華族及従者等

東伏見宮(小松宮) 彰仁、五十君賀(東伏見宮家従者)、森繁(東伏見宮家従者)、三宮義胤(東伏見宮家随従) 三条公恭、森寺広三郎(三条家従者)、戸田五郎(三条家従者)、中御門寛麿、城連(中御門家従者)、毛利元功、大野直亮(毛利家従者)、矢島佐九郎(毛利家従者)、万里小路道房、石野基将、押小路三丸

b) 鹿児島県

26) 「吉田文書 3024」(下村富士男『明治初年条約改正史の研究』吉川弘文館, 1962, 140-42 頁および渡辺実『近代日本海外留学生史』上巻、講談社、1975, 254-56 頁)。

吉田伴七郎、黒岡帯刀、西直八郎、川島新之允、有島幹太郎、東郷平八郎、  
伊地知休八

c) 山口県

南貞助、富田貞次郎、音見清兵衛、志道貫一、山県少太郎、土方賢吉、石  
田昇蔵

d) 高知県

吉沢迂郎、西村猪三郎

e) 伊万里県

丹羽竜太郎

f) 静岡県

曾谷言成

g) 福井県

狛林之助、八田祐次郎

h) 金沢県

佐双左市、土師外次郎

i) 広島県

曾根直之助

j) 飫肥県

小倉処平

m) 長崎県

岩瀬谷亀次郎

n) 政府関係諸機関派遣

1) 大学出仕：菊池大麓、2) 刑部権大録：村田保、3) 工部省十等出仕：土  
山藤次郎、4) 大蔵省出仕：豊原百太郎、木戸正之助、児玉勝之助、山口  
武、岡林篤馬、正木退蔵、長松周造、5) 竜驤艦：原口宗助、6) 中博士：  
入江文郎、鈴木暢、7)：大助教：小林義秀、岩崎権少史

[県費之部]



a) 金沢県

不破与四郎

b) 和歌山県

伊達宗介

c) 広島県

村上啓次郎、西川虎之助、遠野寅亮、田口太作、中村孟（同管区医師）

d) 徳島県

黒部鉉太郎、内藤類二郎、森甚五兵衛、武谷福三

e) 高松県

山田純吉、高原弘造、松田周次

f) 高知県

馬場辰猪、国沢新次郎、深尾貝作、真辺戒作、松井正水

g) 山口県

土肥又一、芳山五郎之助、河北義次郎、天野清三郎、藤本磐造

h) 柳川県

佐藤鎮雄

i) 伊万里県

横尾弾九郎、執行謙九郎、八戸欽三、高木報造、古川常一郎、古川研二郎、  
倉永猪一郎、鶴田揆一、志破虎二郎、木下周一、袋久平、円城寺権市、辻  
小伝太、横尾平太

j) 大村県

岩永省一

[自費之部]

a) 清水篤守（従五位）、朝比奈一（清水家夫）、小野寺京介（清水家従）、近  
藤環一（清水家従）

b) 静岡県

平岡熙

c) 宇和島県管轄商人

藤田隆三郎

d) 伊万里県

石橋家九郎

e) 山口県管轄農

平原太作

合計 107 名

【付録Ⅲ】明治 6 年 7 月英国留学生姓名<sup>27)</sup>

各国在留公使へ示達文

英国官資留学生姓名

山口県貫属士族	天野清三郎	当府ニハ素ヨリ淳一郎ト記載有之 候得共淳一ト改名致候哉ソノ月日御訂 之事	
同	藤本磐蔵		
山口県貫属士族	芳山五郎之助	浜松県貫属士族	曾谷言成
三条太政大臣家従	戸田三郎	山口県貫属士族	富谷禎二郎
京都府貫属士族	森寺広三郎	三潞県貫属士族	佐藤鎮雄
東京府貫属士族	毛利元功	宮崎県貫属士族	小倉処平
同	中御門寛麿	佐賀県貫属士族	丹羽竜之助
足利県貫属士族	狛林之助	香川県貫属士族	松田周平
毛利元功家従	矢島佐九郎	同	高原弘蔵
石川県貫属士族	不破与四郎	同	山田純吉
広島県貫属士族	遠野寅亮	佐賀県貫属士族	志波虎次郎
同	田口太郎	同	横尾平太
同	村上敬次郎	同県下兵民	中村孟
東京府貫属士族	丹羽淳一郎		

27) 「各国在留公使へ示達文」および「海外留学学生改正処分之儀ニ付伺」国立公文書館所蔵「雑書」〈2A/35-1/記 412〉(『馬場辰猪全集』第 4 巻、岩波書店、1988、27-33 頁)。なお、各文書の前文は省略している。

同士族	西川虎之助	同	田城寺権一
高知県貫属士族	真辺戒作	同	辻小伝太
同	馬場辰猪	長崎県貫属士族	長岡治三郎
同	国沢新九郎	同	岩永省一
同	深尾貝作	東京府貫属華族	万里小路道房
同	松井正水	京都府貫属華族	石野基昭
同県下平民	古沢迂郎	東京府貫属華族	前田利嗣
名東県貫属士族	内藤類次郎	高知県貫属士族	松井周助
同	森甚平	長崎県貫属士族	岩崎道行
同	武谷福三	山口県貫属士族	国司健之郎
同	黒部鉉太郎	高知県貫属士族	福岡守人
小倉県貫属士	族建野郷三	同	伊賀陽太郎
京都府貫属華族	押小路三丸	東京府	貫属華族
東京府貫属士族	三宮義胤	岩倉具経事	滝小次郎
佐賀県貫属士族	香月経五郎		
東京府貫属士族	菊池大麓	帰朝	五十人
鹿児島県貫属士族	黒岡帯刀		六人
青森県貫属士族	野口富造	計	五十六名

英国私費留学生姓名

東京府下商人	吹田勘十郎	同	田中永昌
神奈川県下商人	藤田隆三郎	東京府貫属華族	伊達宗敦
東京府貫属華族	毛利元敏	同	上杉茂憲
同	鍋島直太	同人家従	千坂嘉遯高
石川県貫属士族	堀嘉久馬	東京府貫属華族	蜂須賀茂韶
同	沢田春松	同人妻	斐子
佐賀県貫属士族	松村文亮	斐子召仕	貞子
同	百武安太郎	名東県貫属士族	小室三吉

静岡県貫属士族	乙骨兼三	足羽県貫属士族	三岡彦一
東京府貫属士族	松平忠承	東京府下商人	吹田小四郎
山口県下僧	徳応寺連城		
京都府下僧	専修寺教阿	計	二十四名
山口県貫属士族	野田升介	合計	八十一名 (ママ)
同	山内梅三郎		

海外留学生改正処分之儀ニ付伺

英国官費留学

甲<sup>28)</sup>

山口県貫属士族	芳山五郎之介
高知県 同	馬場辰猪
名東県 同	武谷福三
佐賀県 同	香月経五郎
文部省出仕	菊池大麓
佐賀県 同	丹羽竜之助
長崎県 同	岩永省一

以上計八名

英国官費留学

乙

山口県貫属士族	藤本磐蔵	広島県貫属士族	遠野寅亮
三条太政大臣家従	戸田三郎	同	田口太郎
京都府貫属士族	森寺広三郎	同	村上敬次郎
東京府貫属士族	毛利元功	同	西川虎之助
同	中御門寛磨	高知県貫属士族	真辺戒作
敦賀県貫属士族	粕林之助	同	国沢新九郎
毛利元功家従	矢島佐九郎	同	深尾貝作

28) 甲は従来通り留学の継続が認められた者で、乙は全員帰国を申付けられた者であった (『馬場辰猪全集』第 4 卷, 490 頁)。

同	松井正水	同	山田純吉
同県下平民	古沢迂郎	佐賀県貫属士族	志波虎次郎
名東県貫属士族	内藤類次郎	佐賀県貫属士族	横尾平太
同	森甚平	同	円城寺権一
同	黒部鉉太郎	同	辻小伝太
小倉県貫属士族	建野郷三	長崎県貫属士族	長岡治三郎
東京府貫属華族	岩倉具経	東京府貫属士族	万里小路道房
京都府貫属華族	押小路三丸	京都府貫属華族	石野基将
東京府貫属士族	三宮義胤	同	前田利嗣
同	丹羽純一	長崎県貫属士族	岩崎道行
浜松県貫属士族	曾谷言成	高知県貫属士族	松井周助
山口県貫属士族	富谷禎二郎	山口県貫属士族	国司健之郎
三潞県貫属士族	佐藤鎮雄	高知県貫属士族	伊賀陽太郎
名東県貫属士族	松田周平	計	四拾二名
同	高原弘蔵		